

きっかけは、本当に偶然だった。

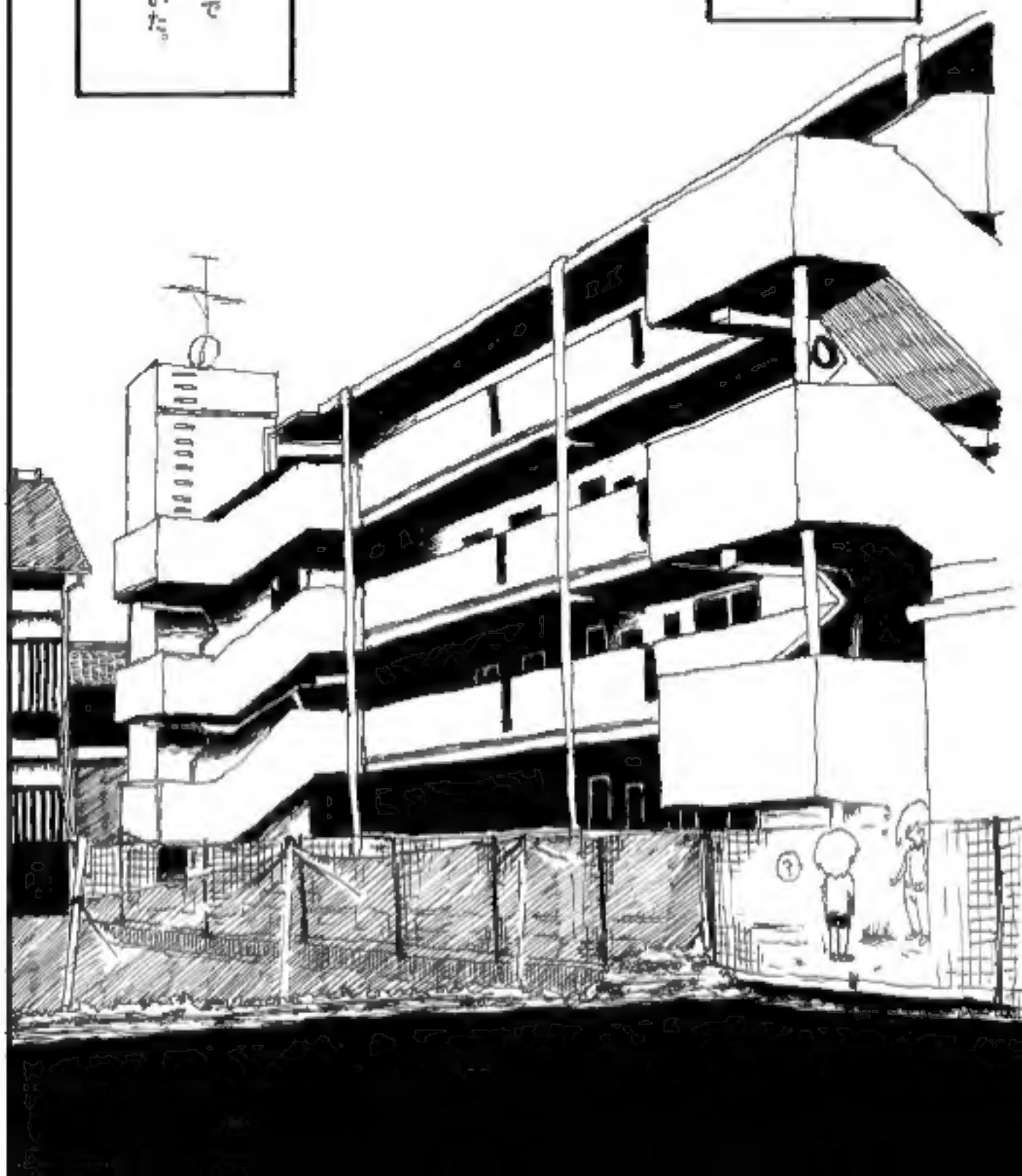
あれ、あま姉？

あ。

暑い、夏の午後。

友だちのいない僕は、
うっとうしい妹の子守りや
留守番をほうり出し

連日、真夏の涼しい日陰で
遊び飽きたゲームを
ダラダラとくり返していた。



あま姉（本名は嶺山あまねさん）は、
同じマンションに住む顔なじみ。

マ、マズいところ
見られちゃった
なあ……



ゴ、ゴメンね
ヘンなところ
見せちゃって！

僕はその時、単純に
「どうして大人の持ち物を持ってて、
なぜわざわざ外で吸うんだろ？」
としか思わなかったのだ。

サッ

あまりにもうろたえるあま姉の姿に、
大変なところを見てしまったのか、
と申し訳なくなかった。

え、
だ、大丈夫だよ

僕、誰にも
いわないよ

僕、口堅いし、その
話す人もいないし……

すると、



ホ、ホント!? ホントに?

ありがとう、
助かるよー!!

あま姉はとても安心してくれたので、
僕もほっとした。

ウ、ウン
平気だよ……

僕その、
口堅いから……

でも、同時に怖くなった。

この人は、
不良なんじゃないか?

きみも吸えよと
強要されたり、
殴られたり脅されたり
するんじゃないか。
僕は怯えた。

しかし、

ゆう君はこんな
中学生になっちゃ
ダメだぞ?

……それじゃ、

あま姉は、
それをしなかった。

ガ

友達のところ
行ってくるから、

またね……

夏の日差しに照らされたあま姉の肌は
とても綺麗で、

僕に語りかける声はふわりと優しく、

とても
やわらかかった。



僕は、妹が憎くて
仕方なかった。

出てけよ
ジャマなんだよ!!

一方的に怒るばかりの
お母さんも、大嫌いだっただ。

コラゆうまけちゃん
お兄ちゃんらしく

香穂のこと見ててよね、
まったくもう!!

お母さん集会で忙しいんだから
まったく、大変なのよ...

何よりも、大好きだったお父さんが
完全に妹びいきになり、
全く構ってくれなくなったことが、
妹に対する憎しみを強めていた。

オラツ母ちゃん帰るまで
部屋には入ってくんないよ!!

ドガッ

バグム

僕は、「お姉さん」がほしかった。

年下は憎たらしい。同級生はいじめの
オバサンは口うるさくテキトーで、
子供の話なんて聞きやしない。
優しく、普通におしゃべりができる
心の拠り所が、たまたまなく欲しかった。



あま姉は、優しいと思う。
でも馴染みが薄いし、
学校も違う。
気軽に頼れる度胸はない。

あーっ 鶴川ゆうまーハナクソ
ほじっただろ今ー!!!
な、なんだよっ
ヒジついてただけ……

ワーまた言い訳してる
嘘ついてる
私見たもん嘘つき!!
ねーみんなあああ

いいいい加減にしてよっ
毎日毎日言いがかりばかり
つけて いじめてきやがってっ

うるせーんだよハナクソ!!!

耳障り
なんだよ

ツバ飛ばしてんじや
ねーよ

ウワ、
汚えー
またウソ
ついてんの?

うわ半ベソ
かいてぬ?

あ、あの辺の空気
汚染されてるわ

まず
ウルサイよね

私も見えた

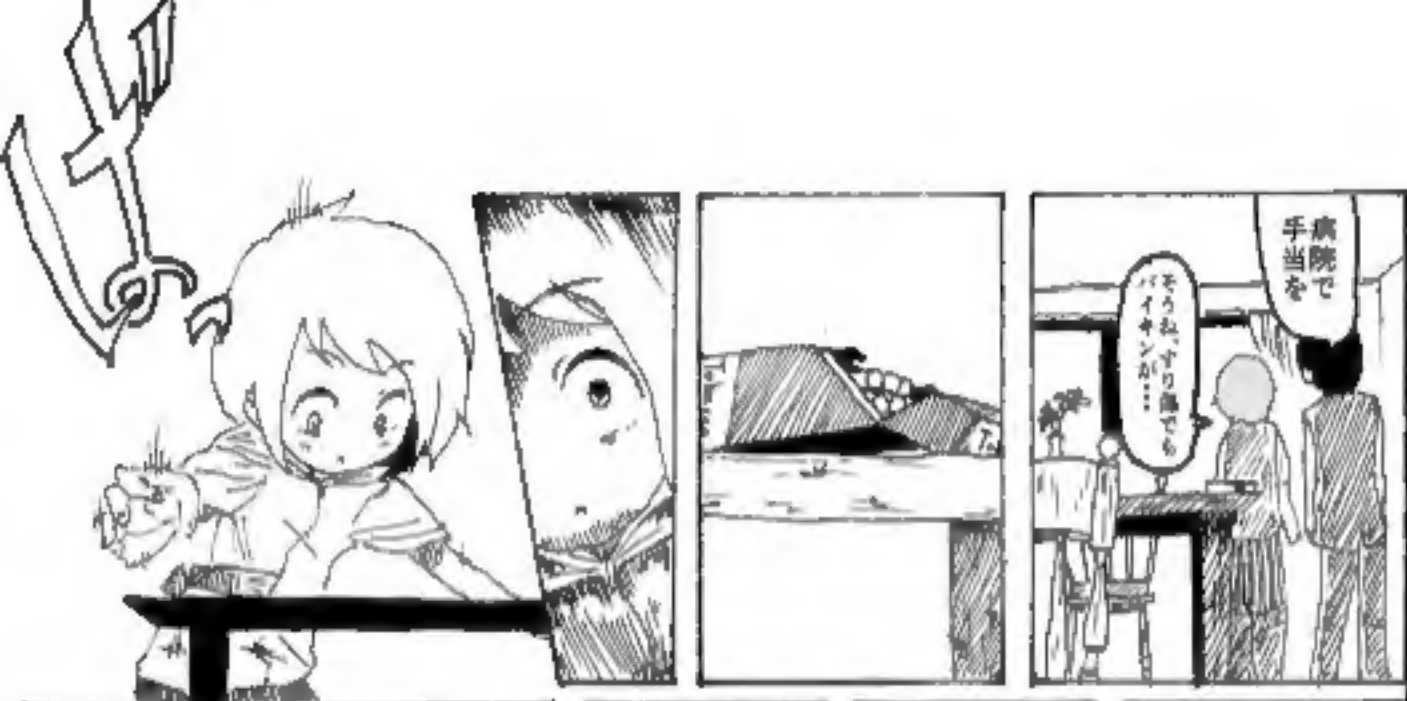
ゴゴゴ……

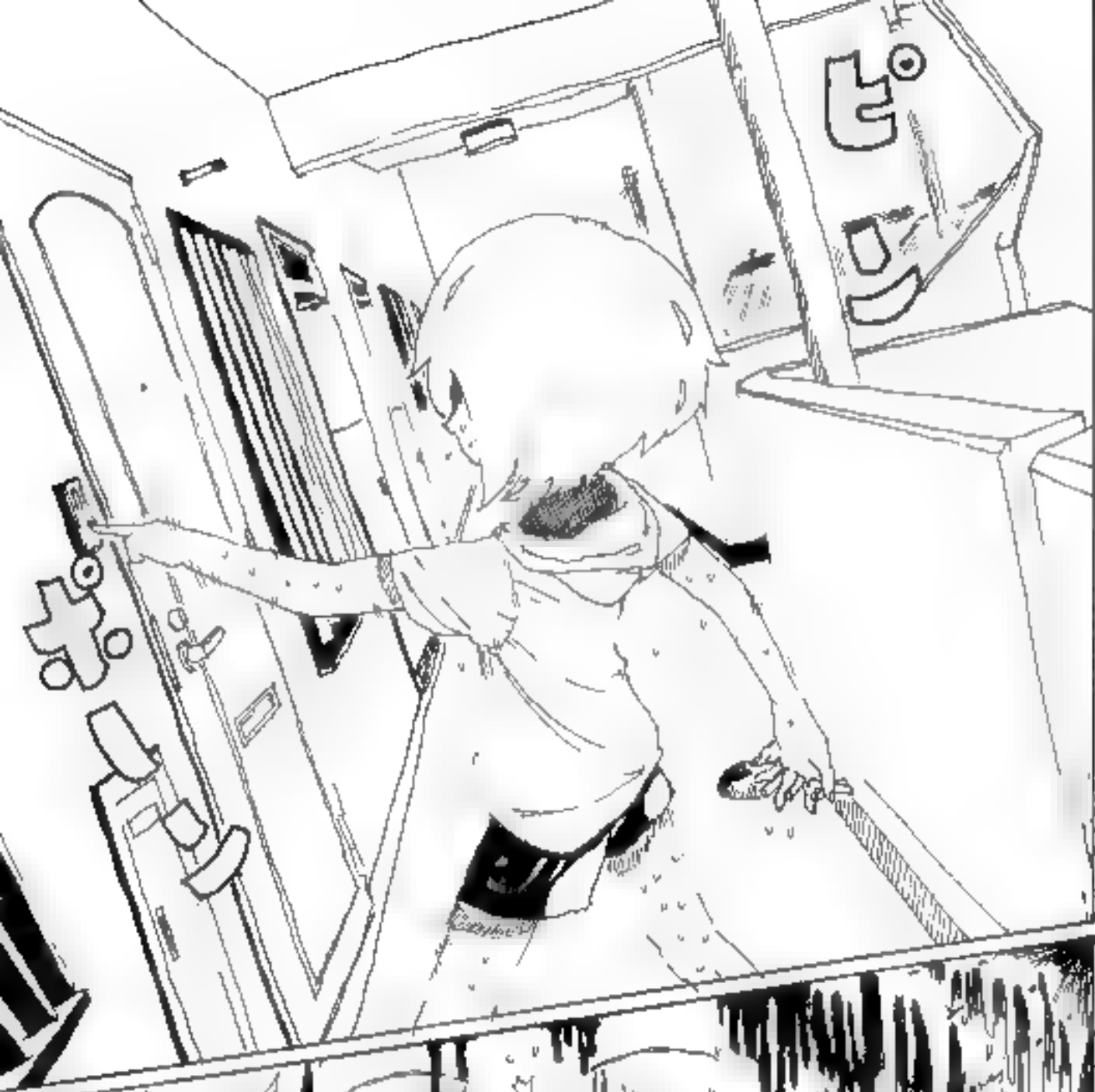
ゴゴ

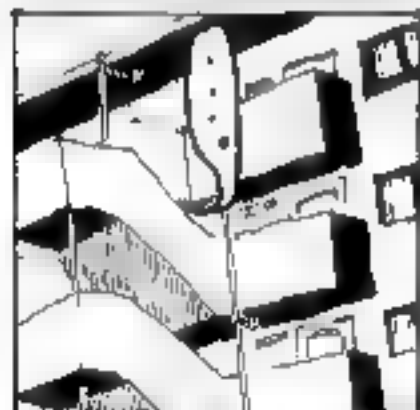
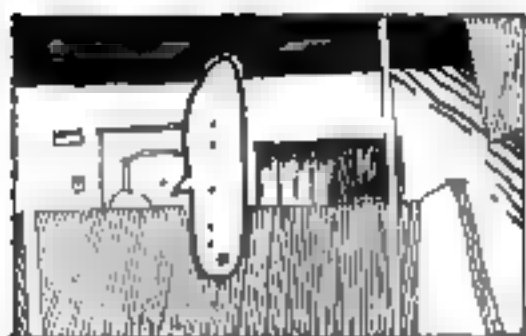
……

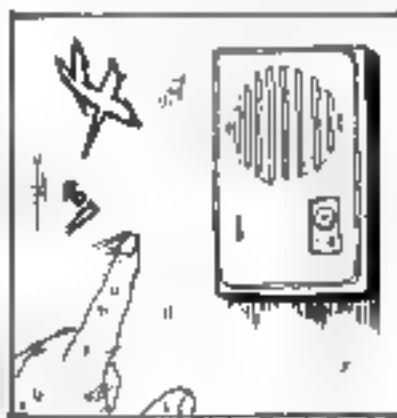
ゴゴゴ……







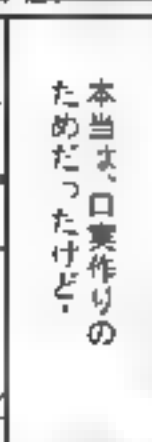


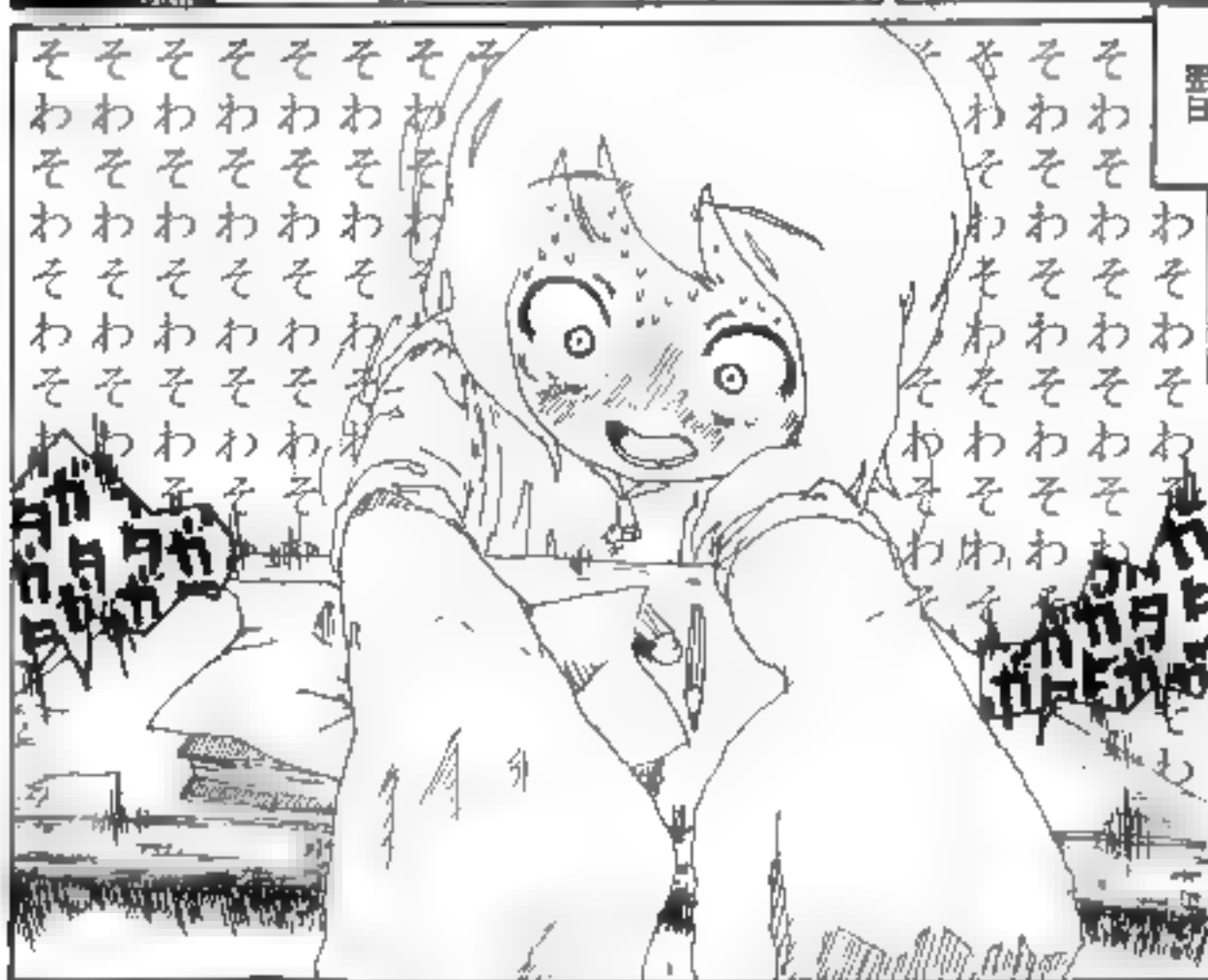






ごめん、今日はこれから
友だちと遊ぶんだ……





えっ、あま姉の家はダメ?



なんで?

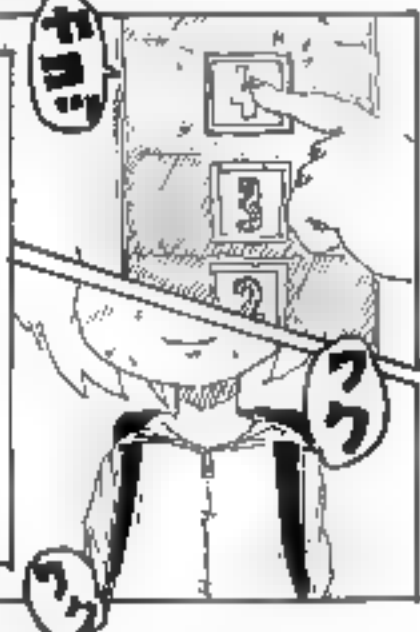
それは、僕がインドア派なのもあつたけど



うちは、どうしてもダメなんだよ……
ゴメン、君の部屋で遊ぼうよ

外は暑いし、体力差もあるだろうし、
どうせならあま姉の部屋がいいな……
という軽い希望だった

カヨッ



あま姉は、女の人らしい
いい香りでした。

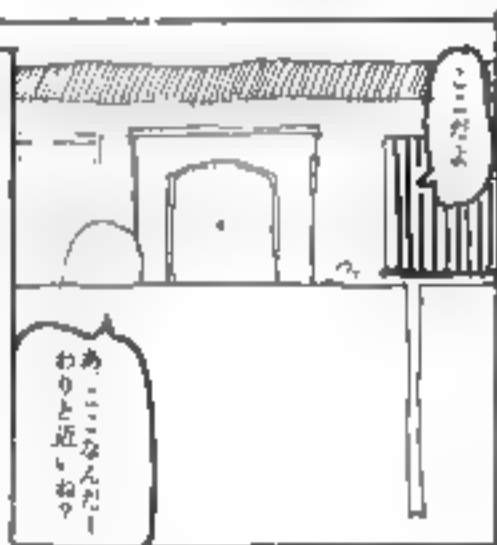


男子やクラスの女子と違って
肌も綺麗で、控えめに染まった髪が
カワイイと思った。

チーン



今日は、特別な日だ。そう感じた。



ここだよ

あ……なんだー
わりと近いわ

でも、
あま姉はいつもと何ら変わらない
ラフな出で立ちだったので、
少しかんかノした。

ガチャ

おじやまします

ただいま (無)

あらーあまねちゃん
いらっしやいー! (母)

……おじやま……



遅くまでゴメンね。たまに
読みに来てもいいかな？

ジャンプも読み終わったら
ちようだい！それじゃ、
おじゃました。

ウー、
また……



女の人と遊ぶのは
なんて楽しいんだろう。



男子みたいにギスギスしたり、
競争したり、殴ったりがない。
ただ安心して仲良くできるってことは
なんて幸せなんだろう。



僕が弱っちくて、誰にも勝てないから
特にそう思うのかもしれない……
今はそんなことより、「この幸福感」
浸っていたかった。

二週間ほどすき。

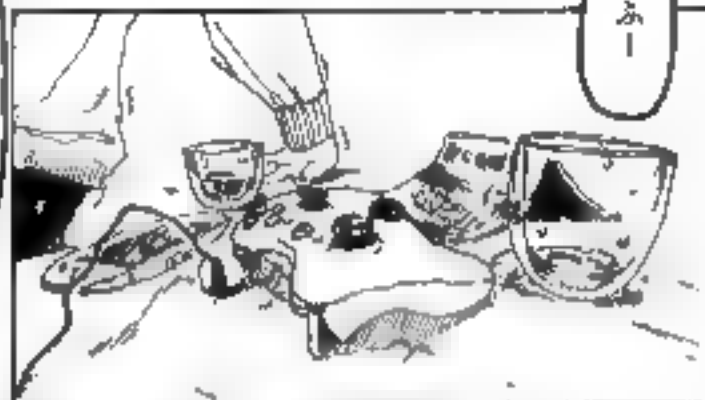
なせ家が近いので、
一日中遊ぶのでなくても
ちよくちよく漫画を読みに
来てくれていた。



ただ……
寡の話をふると、
いつも曖昧な返事で
かわされるのが気になっていた。
そんなある日。



ふー



漫画もいいけど
ゲームも結構
面白いもんだね

ウン、
ずつとやっていると
気持ち悪くなっ
てくるけど……



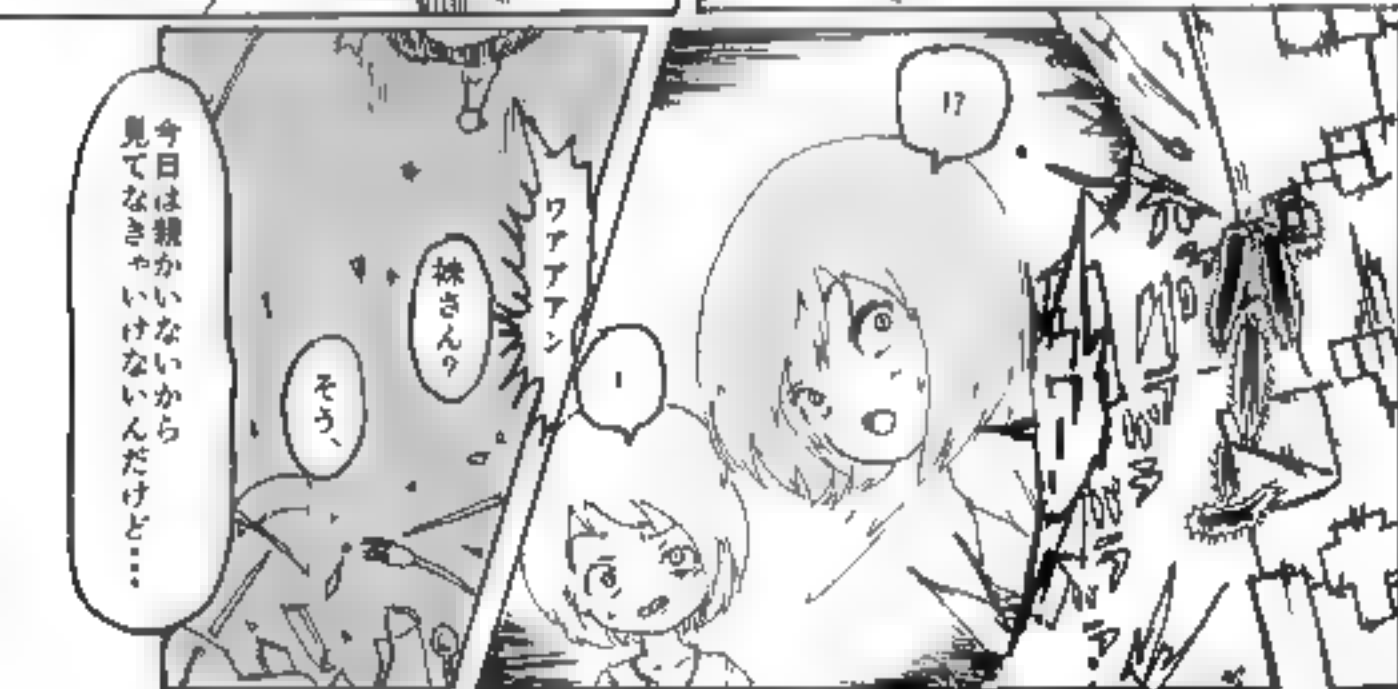
17

ワアアアア

株さん?

そう、

今日は親かいけないから
見てなきゃいけないんだけど……



ん? それで
マズいん
しゃない?

あんなやつ
いんがよ……

ガチャ

あッ

バカ今日が入って
くんなんて

ケガしてんじゃん



オ、オイッ!! 香穂!!

今日は部屋入ってくん
って言っただろ!!

お姉ちゃんにも迷惑
かかってんだろ!! 行って行けよ!!

えー、私は
別に、私は
平気だよ?

う、う……

いや、私
熱いんだけどさあ

こんなカワイイ妹だったら
よかったな、なんてね……

出でけっ

ほらっ

てめっ……

ダメっ……



バッ

はあ...

あんなのはほっときや
いいんだよ、あま姉

ゆう君!!!

えっ...



小さい子に手を上げる男は

最低だ!!!

最低だ!!!





ああああああ

うわああああ

はっ

ああああ

ああああああああ
ああああああ

はっ...

あま姉の言ってることは、全て正しい。

間違っているのは、どうみても僕だ。

僕がこんなにも泣いてしまったのは、
あま姉の桐嶋だけではなく

日頃の鬱憤も全て、
ぶちまけてしまいたかったんだと思う。

でも、

しばらく時間が過ぎ、

落ち着いて目を開けると、
あま姉は：

ごめん……

ごめんね……

手上げ
ちゃって、

ごめん……

本当に、

……ごめん

オバだと思った。

ごめん……

ごめん……

ごめん……

ごめん……

間違ってるのは僕なのに。



僕はまた、あま帰に
大変なことをしてしまった
のだ、と申し訳なくなった。



お互い気まずかったからか、しばらく遊ばない日が続くものの：

机触れようと
すんじやねえよ
気持ちわりいん
だよ

こたって給食は
班作らなきゃ、



私も前 鶴川に触れたこと
あるけど、もう汚いし
クサいし最悪でん……

デメのせいであんな
迷惑してんだよ
わかってんのかよお

わ……ウチも前鶴川に触れたこと
思い出してきた…… ウ……うわああん……

ともちゃん
大丈夫？

うっわ
鶴川が女子泣かせたよ
ウッワ……

死ねよ……

息すんな

やめてよ食事の前に
鶴川の話しないだよ
気持ち悪い



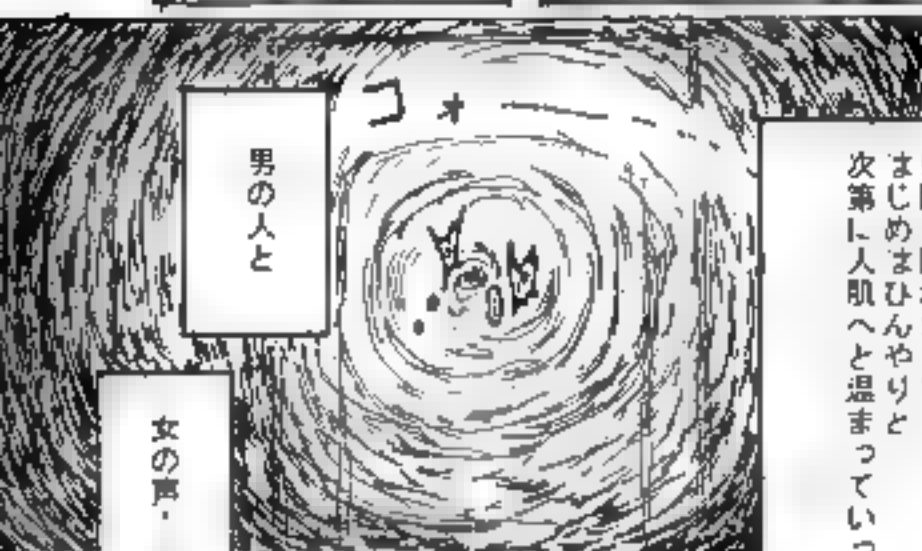


ぴとッ

ドアの向こうから、
かすかに人の声が聞こえた。



!



男の人と

女の声・?

コォ

夏の暑さとは裏腹に
日陰、隠れたトアは
はじめまひんやりと
次第に人肌へと温まっていって



ダメ元だナド

一緒に遊びたい。
優しいあま姉なら、
取り込み中でも僕と
いてくれるんじゃないか。



あま姉かもしれない。
でも、いるのなら
なぜチャイムに応えなかったのだろう。



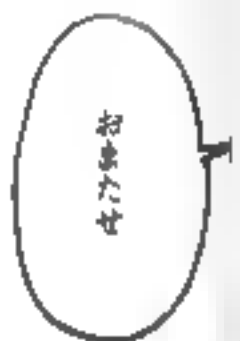




ありがとう、
じゃ替えて
くるから
待っててね...



僕は何となく、
あまり見られちゃいけない
ことなんだな、と思った。



私ね、お父さんに
いじめられるの
お父さんはね、

感情がいつも
グラグラになる、
ひどい満腹だから。

キケンな時期は
私か弟が世話しなきゃ
いけないの

だから、子供か
殴られるとこ見るの
ダメでね……

それで
この間は……

僕は、「女の人の体」を
こんなに近くで見たことがなかった。
それは、単純 好奇心だった。

あ、いや
僕こそ……

中学生にもなると、普段は
ブラジャーをつけているものなんだ
と思った。

家なんて、
安心していられる所じゃないし。

このドア開けたら、ゆう君が
いてくれたらいいなし、なんて思ってたなら
ほんとにいたもんだからさ……

あはは、普段は
ブラつけてるからねー
目立っちゃうねー



あ、いやっ

僕は、考えを見透かされた
ような気がして
恥ずかしくなった。

女の人の胸とかがって
よく見た…となかったし…



そんな見て
楽しい？

…ってこれは
目立つねー確かに！！

男の子なんて、ずっと
べたつとしたまんま
だもんねー、
そりゃあ気になるかあ…



しばらく、何とよなしに沈黙が続いた。

静かで、おだやかな午後だった。

窓を閉めていても、外から、風になびく葉ずれの音がよく聞こえた。

ゆったりと…あまらにもゆったりと時間が進むのだった。

カーテンの隙間から漏れる陽の光を浴びながら、あま姉と僕は…

二人だけの安心感を、確か二分かち合えていた。

これまで過ごした、どんなひとときよりも…幸せかもこれない。



…触らせたげよっか？

ゆっくりにていて、お互い何となく
手持ち無沙汰になっていた。



え、いの？

いよ、
ちよつとただだよ

それは、単純に好奇心だった。
あま姉きもつと知りたい。分かりたい。
それに、どうせ
他にする「とも」もなかった。

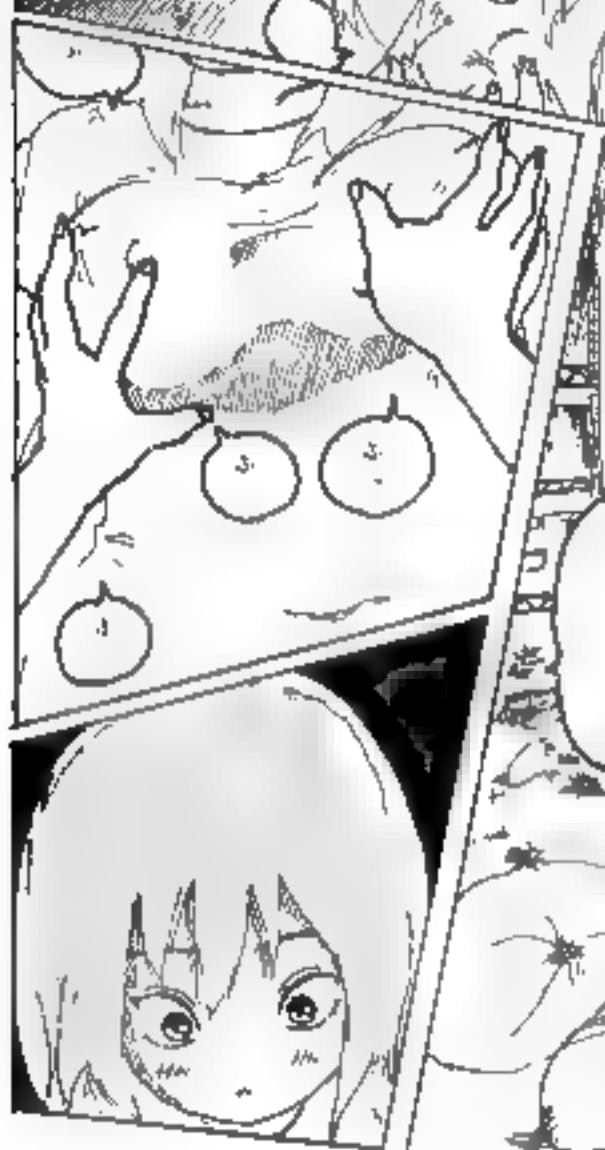


何となく、イケナイ事をしている感じがもあった。

でも、二人を包む大きな安心感が
その罪悪感を限りなく薄めていたんだと思う。

やっぱりそこずっと気になってたり
目立つもんね……

ウ……



そして、ゆっくりと時が過ぎる

見た時からボツチが
気になっていたのに、
そこばかり触ってしまっていたが

それにしては
途中からあま姉が無表情になり、
会話の返事がなくなったのを
とても不自然に感じていた

何か、気持ちが悪くなったのかっ
幸せな安心感を
分かち合えていたはずなのに。
底知れぬ不安、焦燥に襲われそうに
なったので

と、かく何か反応がましい、
確かめたい、と思った。

んあっ



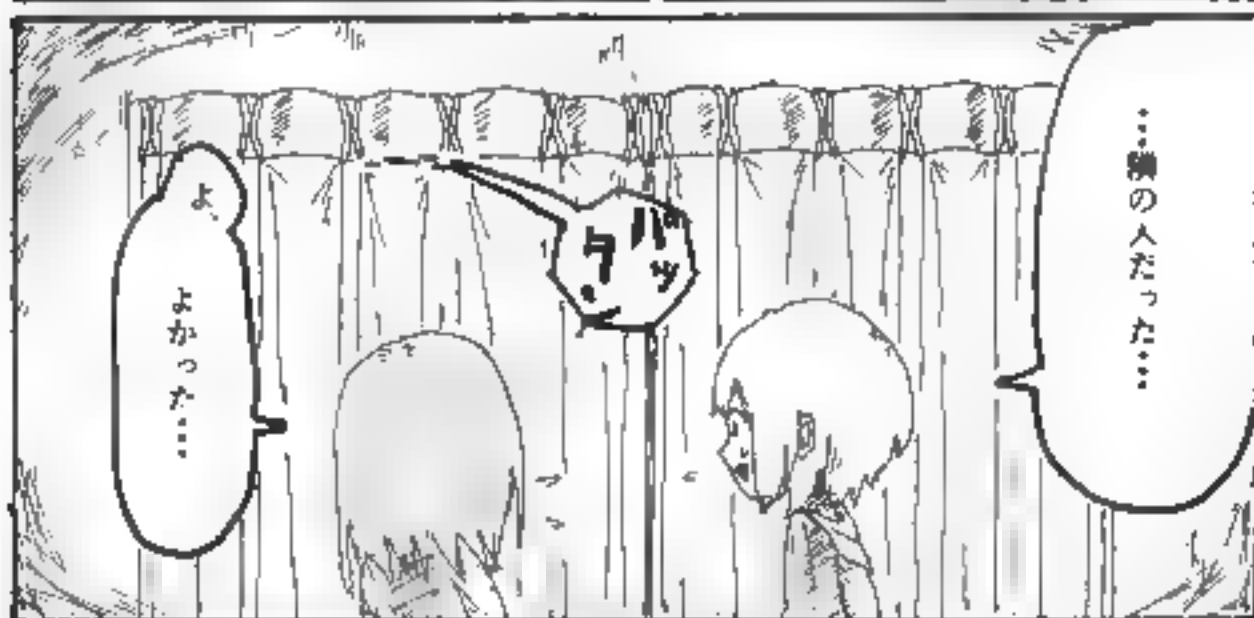
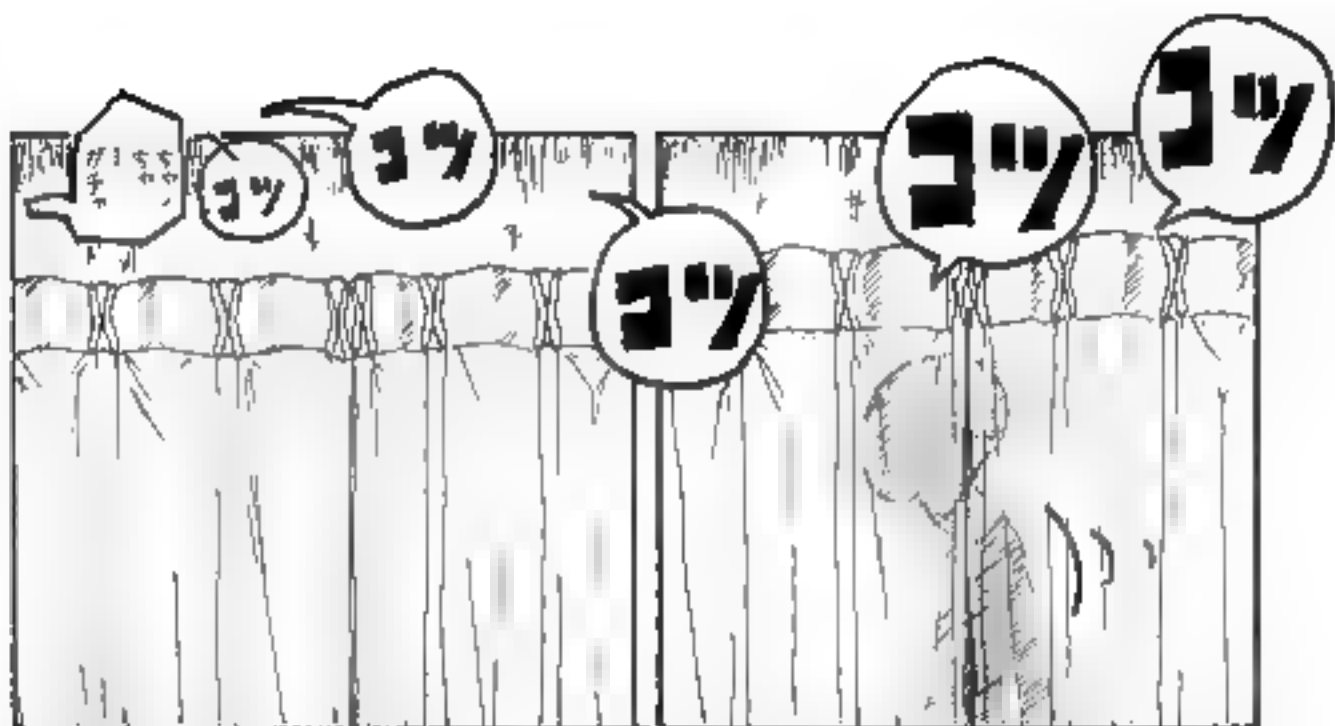




足音…
誰かこの階に来たね。

おばさん…帰ってきたのかな？

近づいてくるね。





暴力的に寝いかかる
非情な日常に揉まれ、疲れ果てていた

……いいよ、
もっと触り
たかったら

僕たちは、疲れていた。

……触っても

だからこそ、

たった一時の偶然から出来上がった、
二人だけの脆く儚い非日常を、
壊したくなかった。

ぬるい空気。

照りつける
日差しから、
カーテンを越した
やわらかい光。

わずかに聞こえる
虫と鳥と葉ずれの
BGM

静かで、おだやかな
時間の流れは

心地よい背徳感を運び、

二人だけの、
小さな幸せを彩った。



女の子のお股ってさ……

お風呂とか入れてあげてるかも
しれないけど、

その、

姉さんとは結構違う
ものなんだよ

それは、単純に好奇心だった。

えっ

ただ、
何となく

頭が沸くような、融けるような

妙な高揚感があった。

……

ゆう君のも、

見せてよね、
けっこ

私も
恥ずかしいし……

それは、とても
恥ずかしかったが

ハッキリと拒否
できなかった。

今から目の前で行われる
出来事に

僕は、グラグラと
震えるような興奮を……



日陰でよく見えないとか、



そんなことなんかより



僕の頭よ、
好奇心でいっぱいだった。



今なら、外に人が来ただけでも



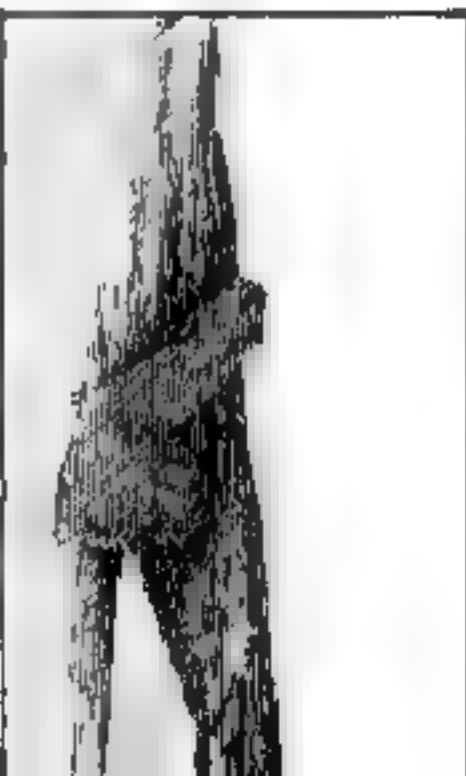
手持ち無沙汰になっただけでも



崩れてしまいそうな、脆く儚い
非日常の中



僕は、進み続けるしかないと思った。





あ、あのさ

にぎ...

にぎ

にぎ

ぬす、ぬす、

ぬす、

これって、

にぎ

入れるっ

あま姉...

女の子のお股に

入れるもの

なんだよ...

えっと、

こんな感じでき...



ぬちよっ

はっ

ぬちよ

はっ...

それは、今まで
全く感じたことのない...

ぬちよ

あっ

あ

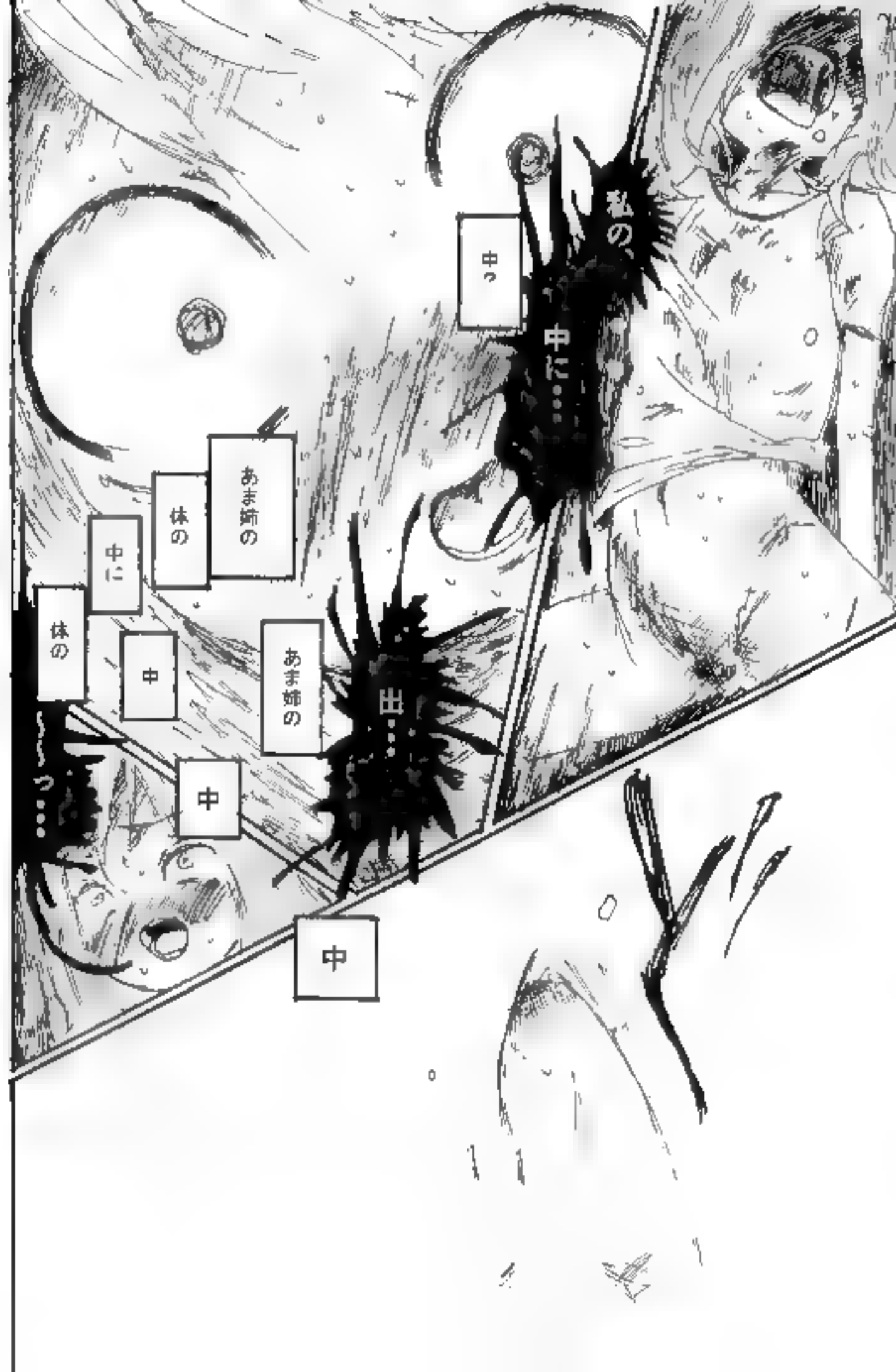
このまま...

でた......

はっ

あっ

異様な興奮。



私の

中

中に...

あま姉の

体の

中に

体の

中

あま姉の

出...

中

中

はあ あーっ





こんな

こんな...

こんな

すごい

ここ

が...

あつていいの
だろうっ

...

これが、

セックスって
言うの...

あま姉が

...近い

けっこ...

産...れ...

す...

僕は、

後にも先にも

めうっ

この世界に、セックスよん
気持ちいいことはないだろうと
確信した。

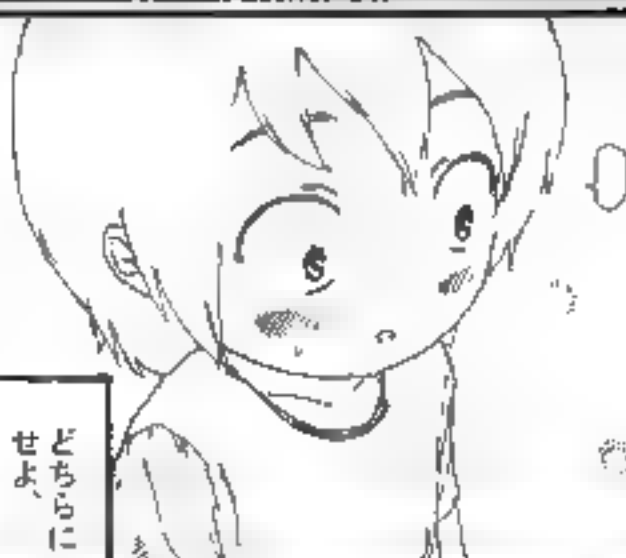
いじめよ。
ほとんど世ではなくなった。



僕への悪評やちよつかいさ
まるで対岸の火事を
見つめるような気持ちだった。

余裕ができたというより、
心が浮ついていた。

どちらに
せよ、



帰ったらあま姉がいて
セックスができる。



それまで考えているだけで、
一日の全てを許し、
忘れることができた。

それは、あま姉も
同じようだった

「世話」の日や、「生埋」の日、
香穂の面倒を見る日、
などなどを除けず

僕らは、いつも声を殺して
セックスをした。

あま姉も、少し
おめかしをしてくるように
なっていた。

セックスは、その日の全てを
忘れるための儀式だった。

どう

それじゃ、またっ……

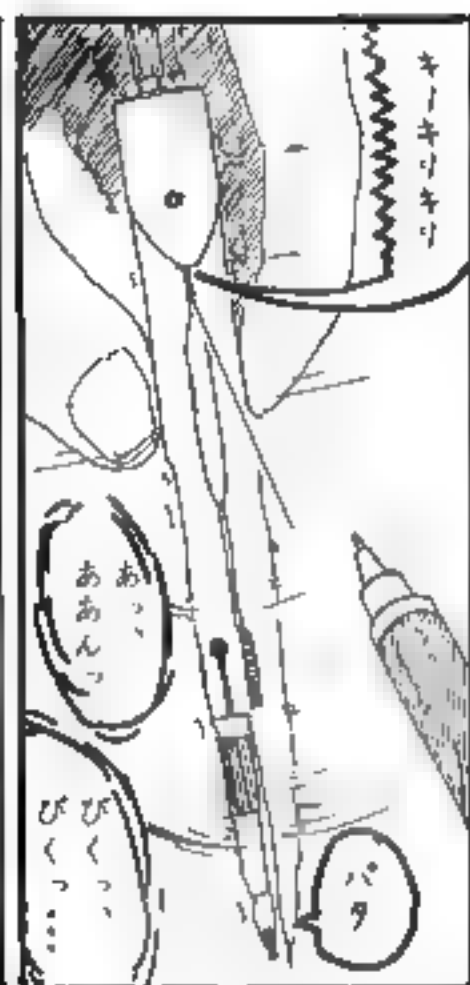
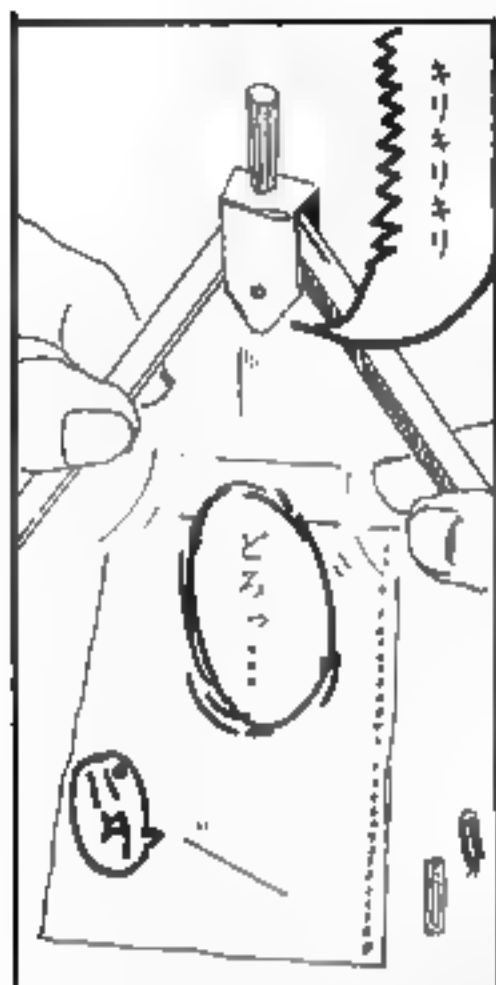
セックスができなくなる。
セックスができなくなった。
苦しい毎日をまた過ごすことになる。
一日を、許して忘れることができなくなった。

僕は、セックスができなくなるのを
何よりも怖れるようになってしまっていた。

セックスをしなれば。どうやって？ 誰とっ
抱き合ってつながり合っていたい。それしか考えられない。
僕は……完全に、

セックスから抜け出せなくなっていた。

つづく



あの後、何度か
あま姉の家を尋ねた。

はい、いいですよー。
ではこの次の段落を
隣にいる人で……

はい

今年の……冬も、なか……
まをつれて、……ぬ……
まーちへ、に、
……やってこいーよー！

ことし
今年

やり方
かた

……やり、かたーで
……やっつけたか、
……いぞ、なあお、
……

「おうい、がー……んの、
え……いゆ……う……よ。
……お
おまえみ……たいなえ……
……らぶつ、をおれはひ……
……きよ、うなやり……」
……ほ……

ぼた



結果よ、毎回迷惑そうに
遊事をされるだけだった。

しわがれた声の時もあれば、
 だるそうな男の人の時もあった。
 何にせよ、
 今まで通りあま姉と会うことは
 もうできないのだろう。

僕は飢えた。

僕は、なくした……。

お姉さんを。セックスを。
心の拠り所を。
日常のオアシスを。

やさしい温もりを、
おたやかな喜びを……

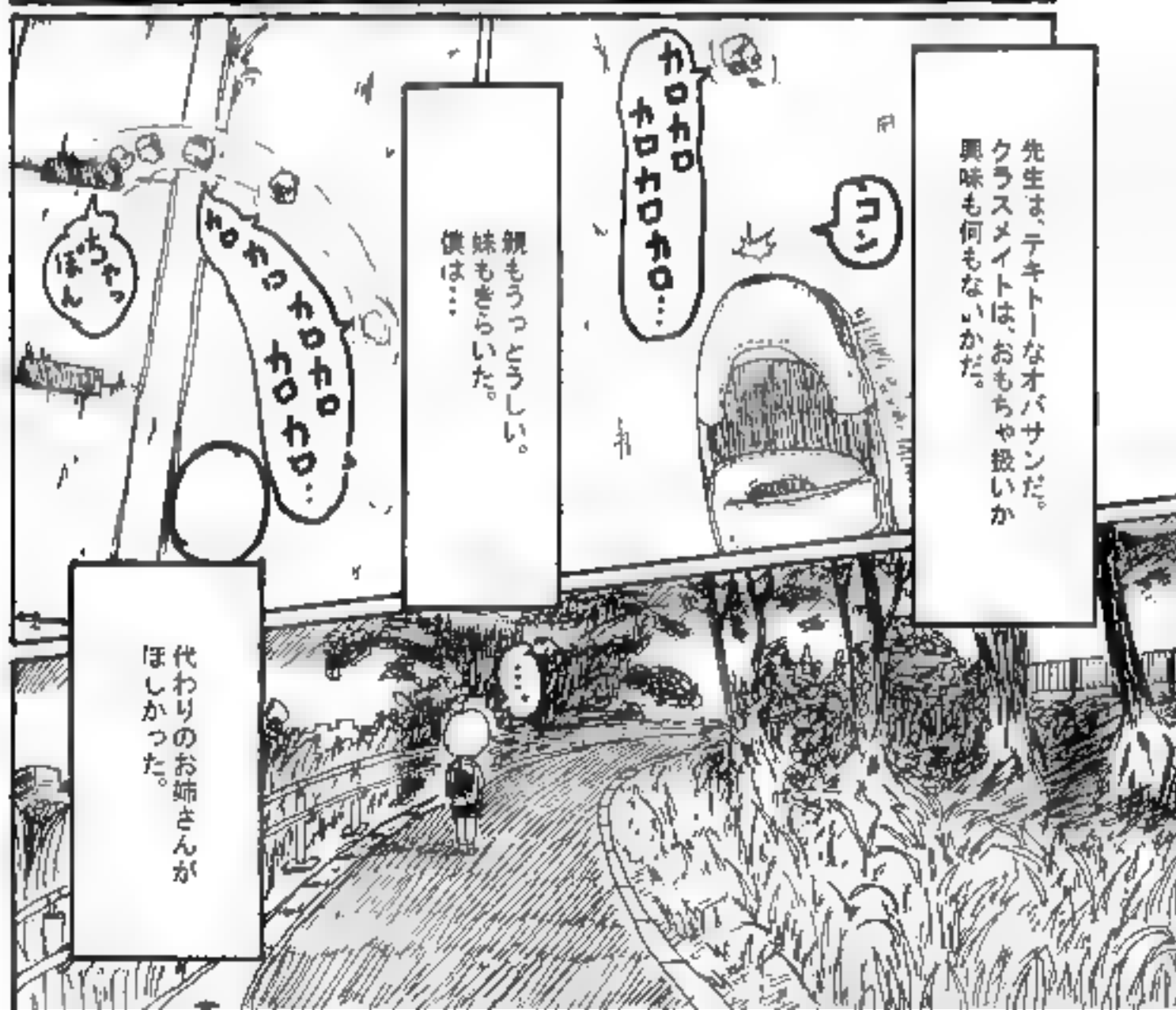
一緒に

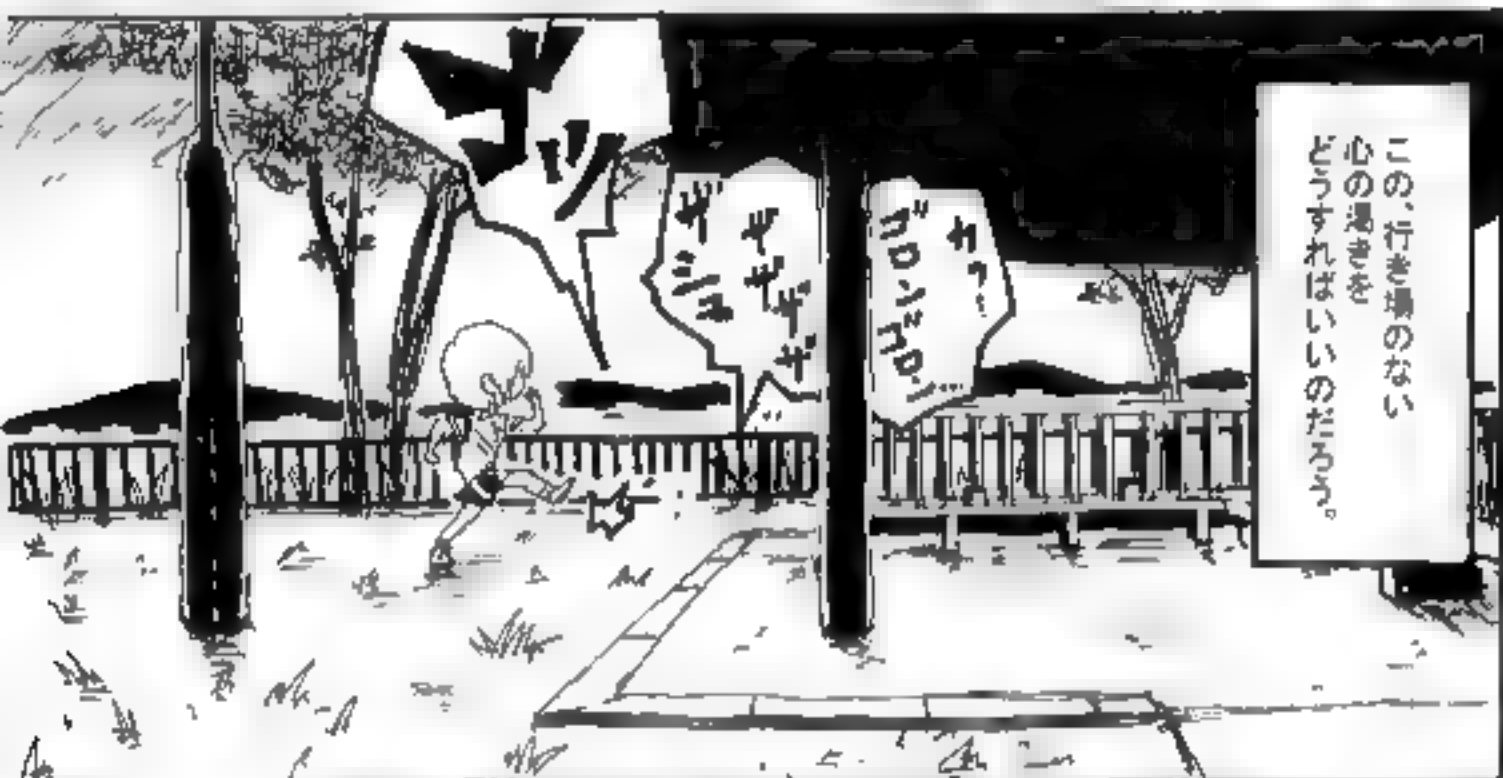
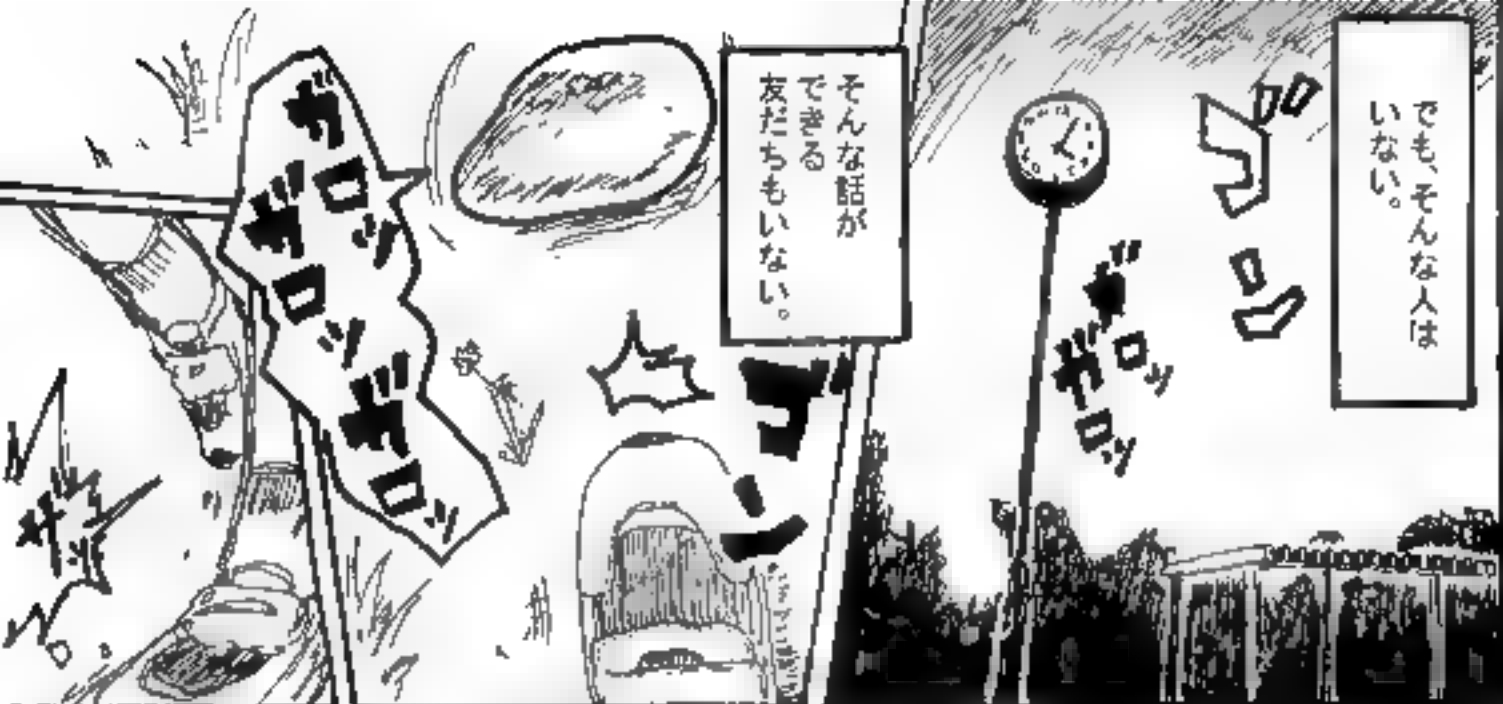
遊ぼうぜー!!!

ハイ

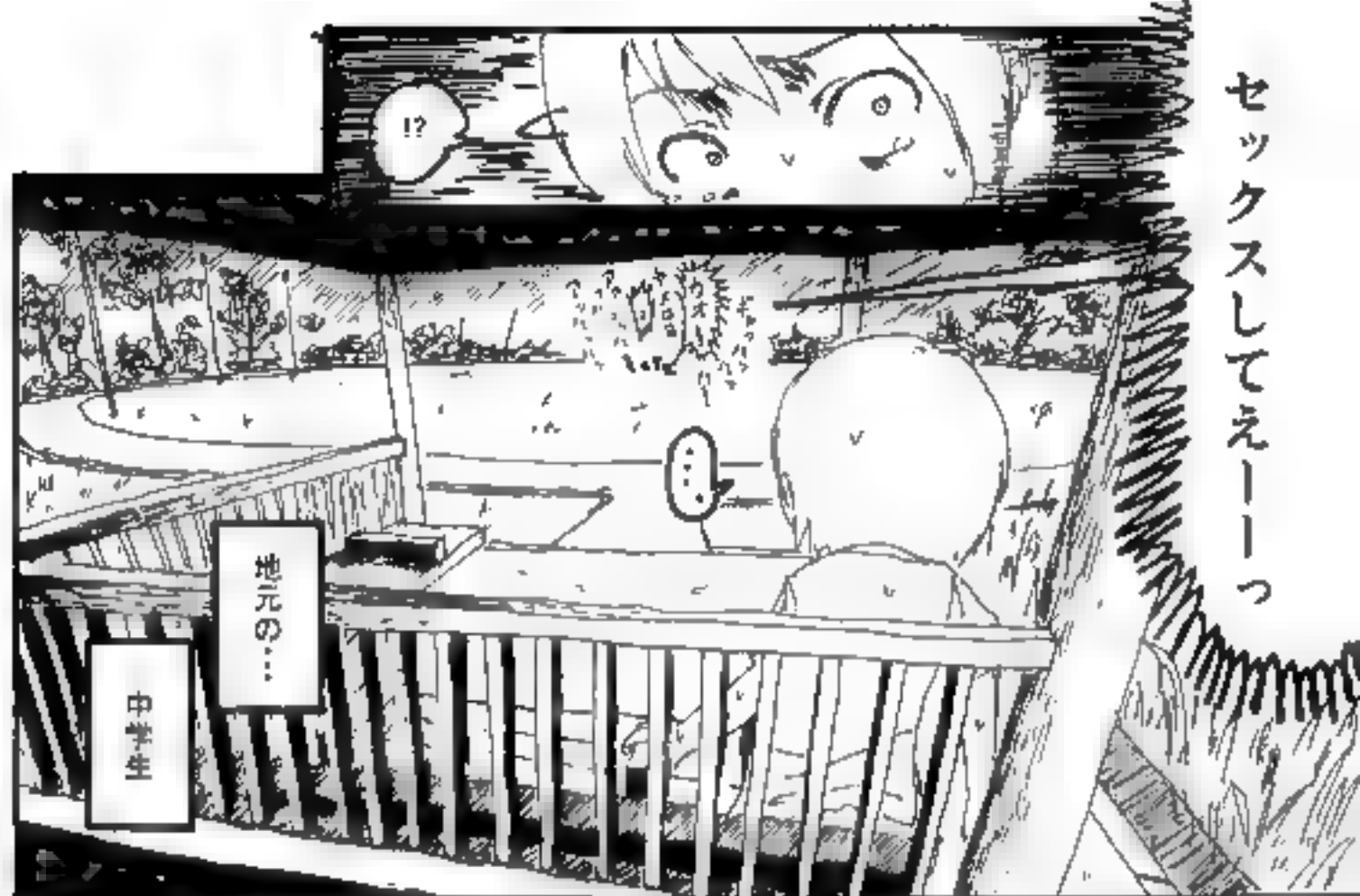
ハイ

ほーれ、





セックスしてえーっ



地元の…

中学生

お前らよ、本当こ
セックスがしたいのか？

セックスがどれだけすごい
ものなのか、
わかってるのか？

ああいう…馬鹿な中学生には
なりたくない。

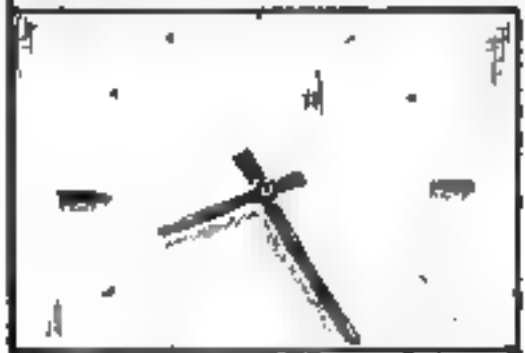


ただいまー





遅刻寸前に登校すると、
いじめられる時間が減って良い…。



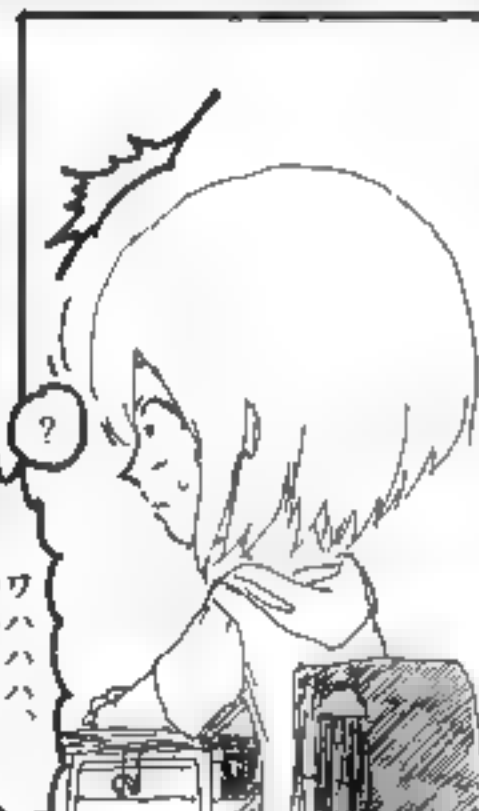
あとは、
静かに始業を…



こっそり着席。
お気に入りの最後尾。



こっそり入場…



ワハハハ、
やめろよ!!

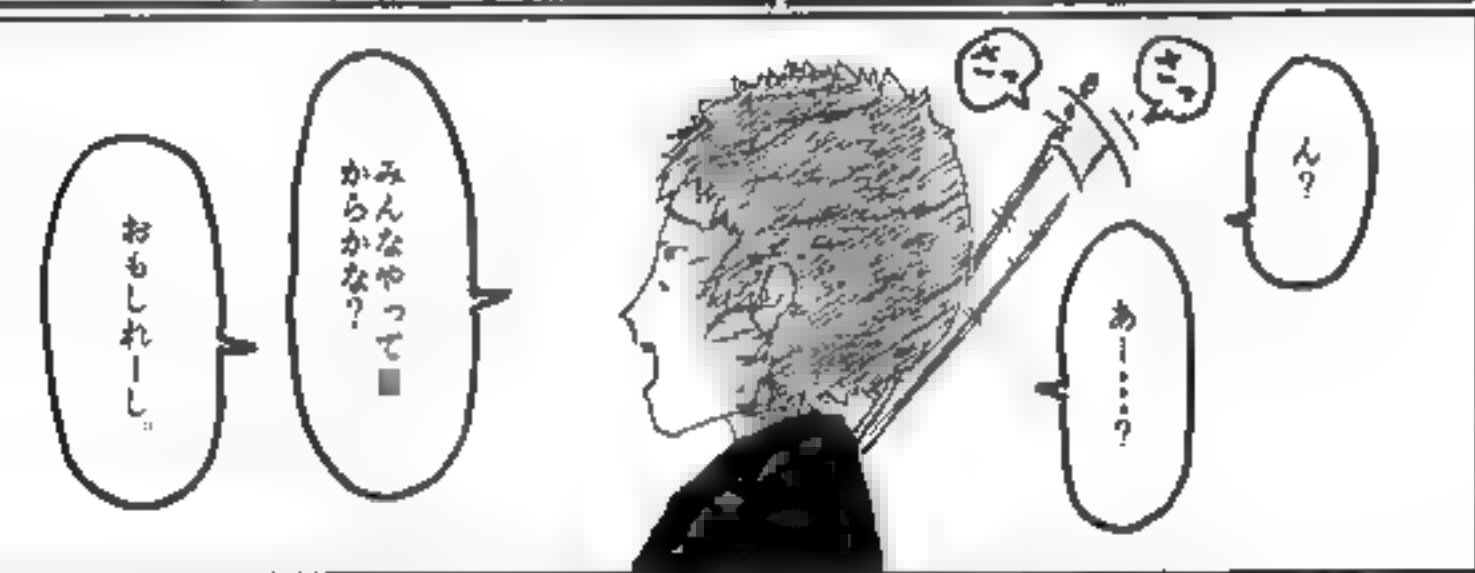


セックスがしてえなーっ

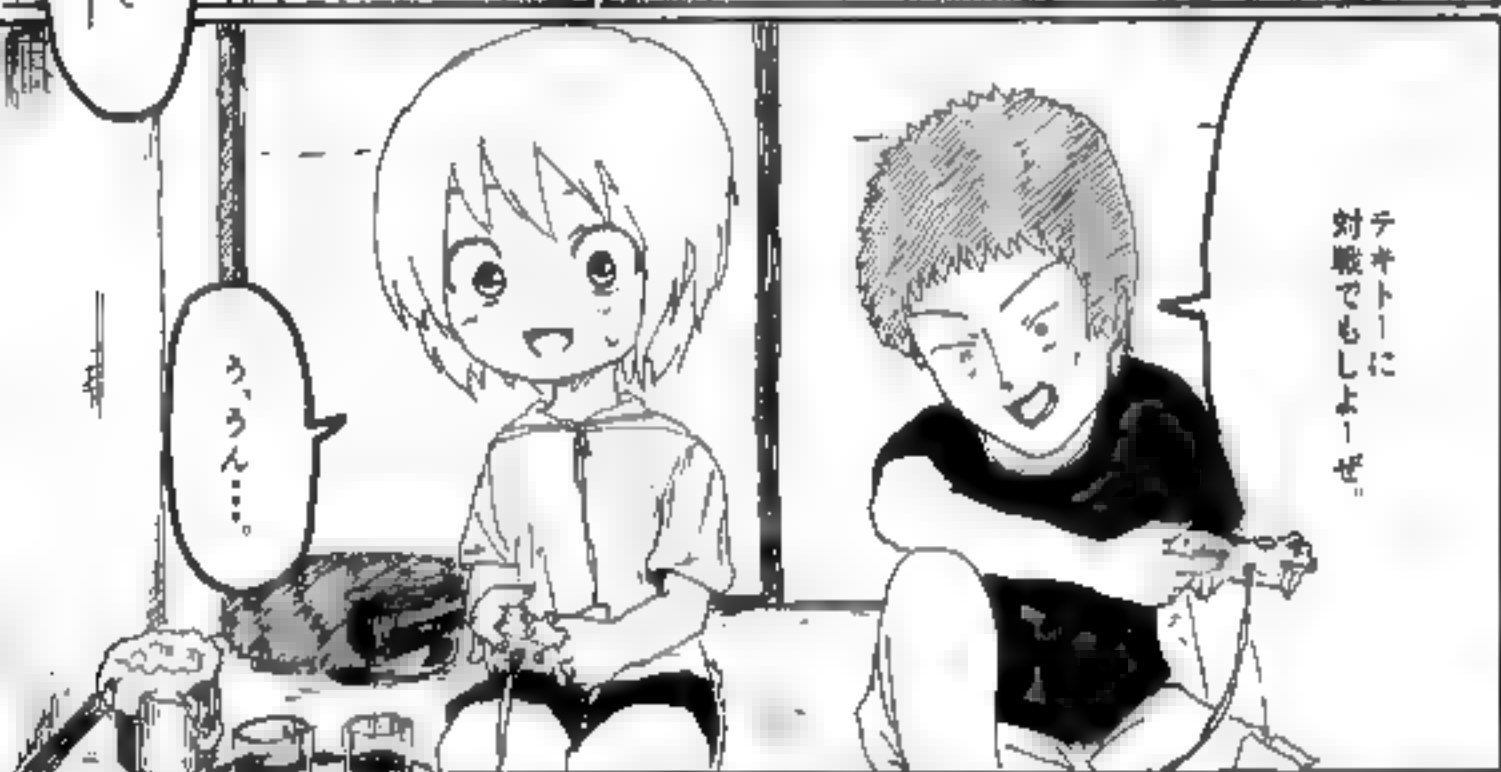














ふーっあちいな！
ただいま！

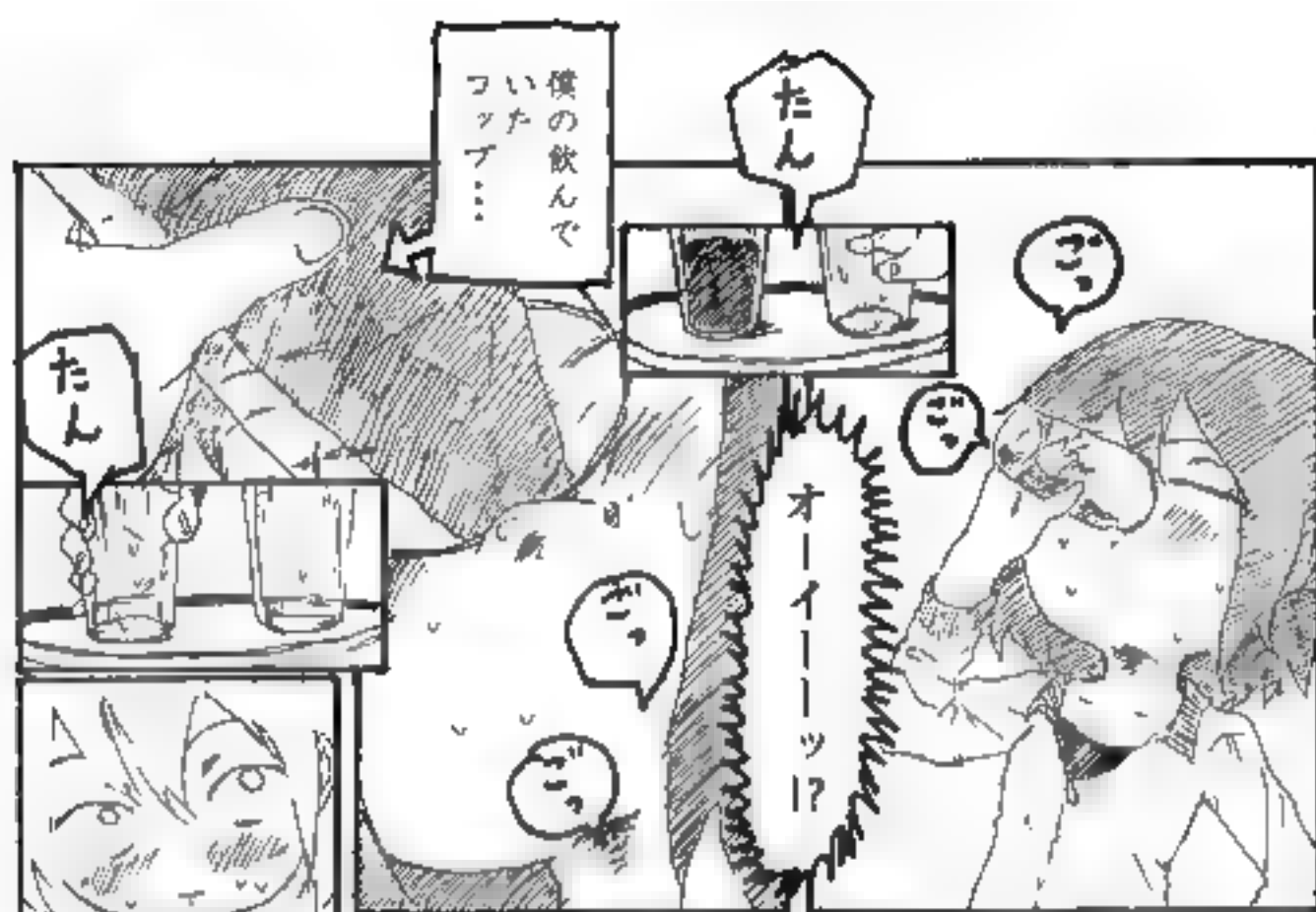
バン

おー

おかえり
クソアネキー

ん？

!?



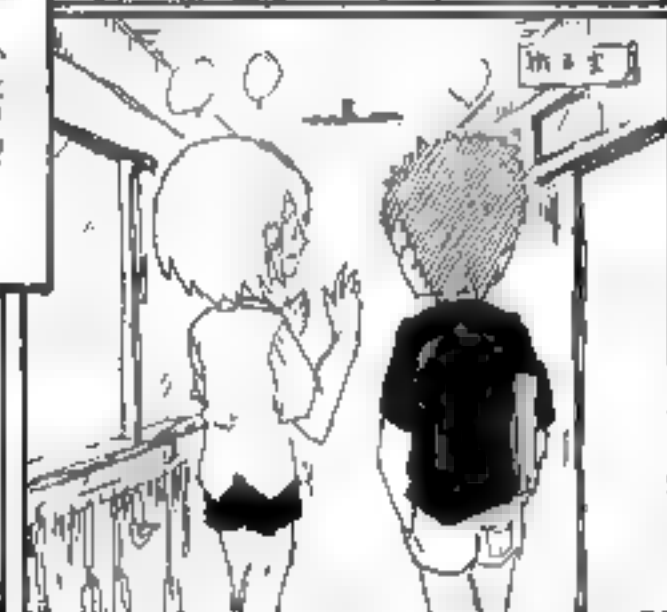




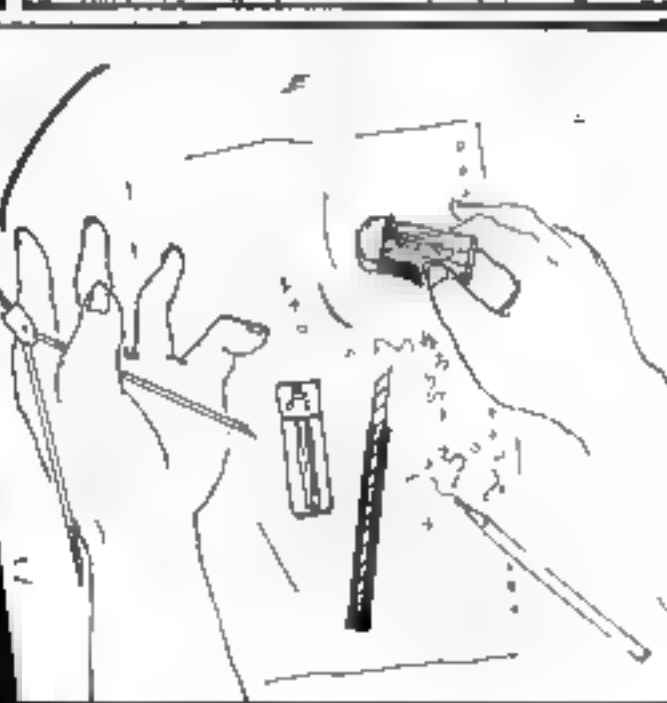
もう一度
会いたい！



ふたりで
遊びたい！



せめて
話せるだけでも...



鶴川ってさ

気持ちわりいな。

えっ？

別に俺さ

おもしろーからみんなの前で
セックスセックス言ってるだけでよ

鶴川みたく、実際どうしたいとか
ずっと一人で想像してるーみたいな
ヤツって

意味分かんねっつか
理解できねえし。

あと別に俺、お前と話してても
特別面白いわけじゃねーし。

運動できるヤツらとみんなで
馬鹿やってた方がおもしろいし。

とマだったら遊んでやっても
いいけどさあ

悪いけど、

あんま話しかけられても
困るわ

じゃ。

あ。

黒松君……

お姉さんって
いつも何時頃に
家出るの？

知らねー

早えーし、

遅えーよ……

5 30 a.m.

早朝ランニング
だよ……

あんたどうしたの
こんな朝早く……

白梅

ゼエ

ゼエ

ゼエ

ハアッ

ハア……

ハア……

……

さすがに早すぎたかっ
でもいつまでも待ち伏せて……



常にシャキッと元気に
いっとけよなー!

ぎゅ


!!!!!!

あっぱっは、
じやなっ…

お姉
さんっ

うわっ!!

ガシ



何だあ？
気持ちわりい
ガキだなあ……。



そうか...



じゃな

気持ち悪い？

これは、

もう、

気持ち悪くて、

表にも出しては
いけない気持ちなんだ。

でも

代わりの
お姉さん、

どころか

人に打ち明ける所から

こんな大変で、
難しいなんて。

僕は

僕はもう……

本当に、もう

どうしようも……



あ

さっき

握られたのに
反応して……

……の

行き場のない
感情を……

にぎ

にぎ

行き場のない
感情を

はっ
は

今、全て
乗せられそうな……

全て……!!

乗せられ
そうな……

はっ……!!?



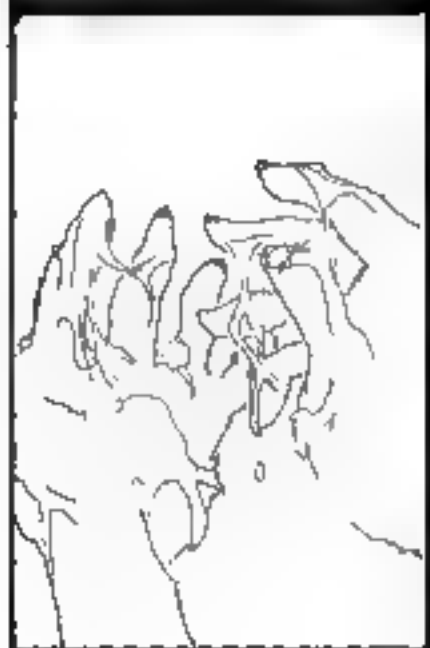


僕は



オナニーを覚えた。

それから、僕は抜いた。抜いて、抜いて、抜きまくった。



一日に何度も。十回。二十回も。泣きながら。部屋で、トイレで、草むらで……



二ヶ月ほど
経っただろうか……。

僕は、

涙も、精子も、心も

君を愛していた。

あま姉の家の前で、
何日か待ち伏せてみた
ことがある。

しかし

あま姉の家は驚くほど外出が少なく
老けたお婆さんか、弟らしき人を
たまに見かけるだけだった。

あま姉はいない。

驚くことがもう一つ。
僕へのイジメが減っている。



何をして、僕の表情が変わらなくなったこと、
そして少しでもイジられると
一瞬で泣き出すようになったことで
誰もが不気味がり、面倒がり、
僕を避けるようになったのだ。

無視は、何か
ちよつかいを出されるより
よほど嬉しいことだった。

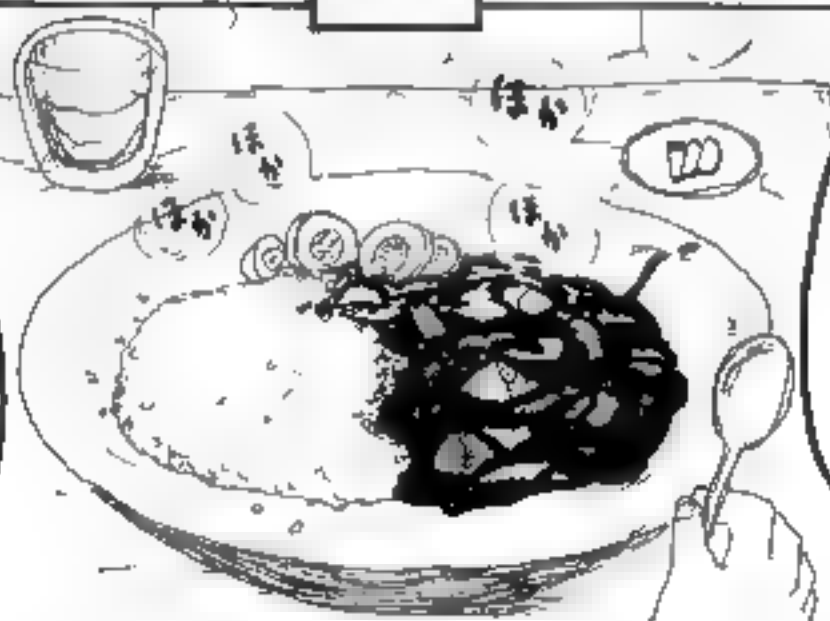


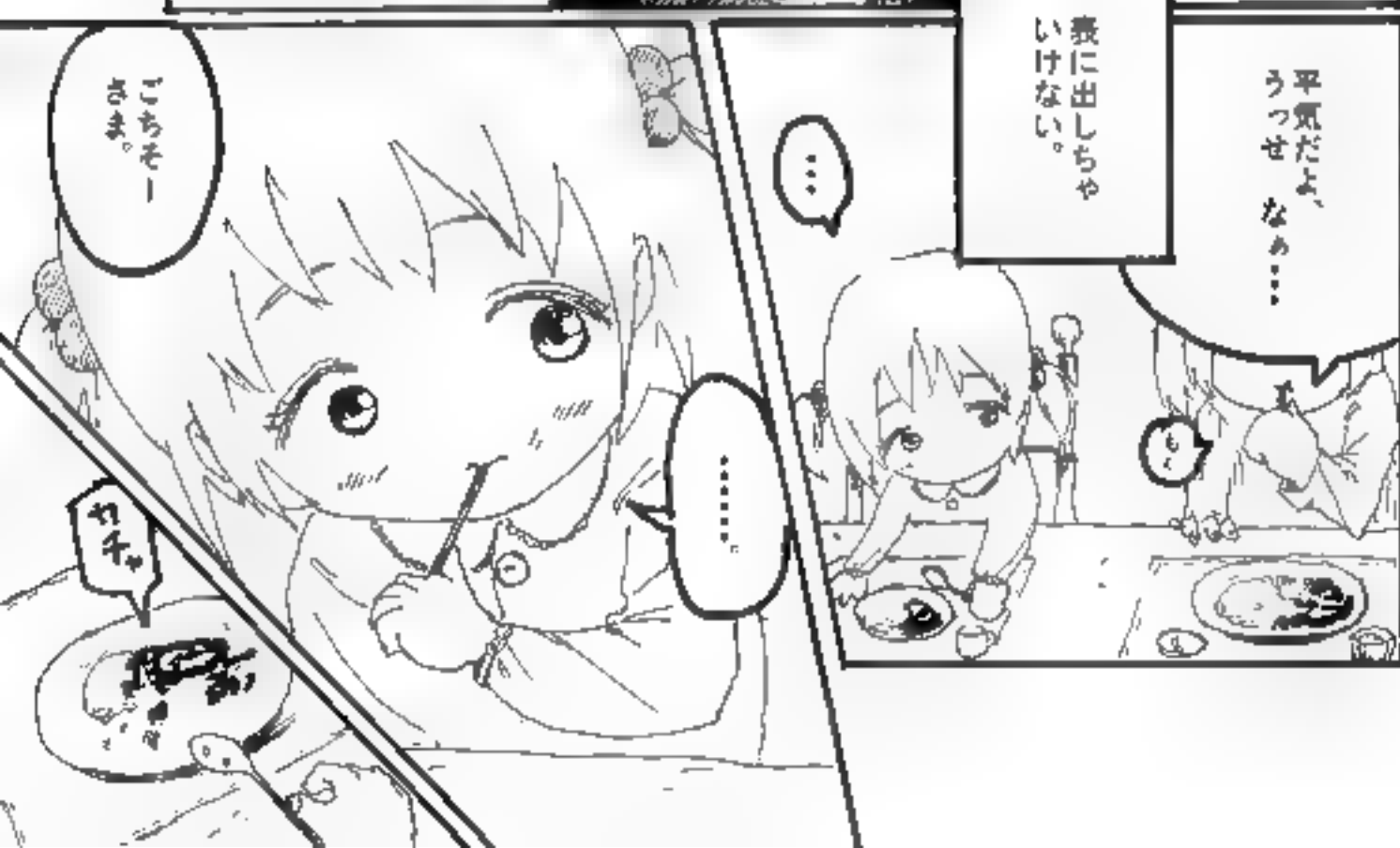
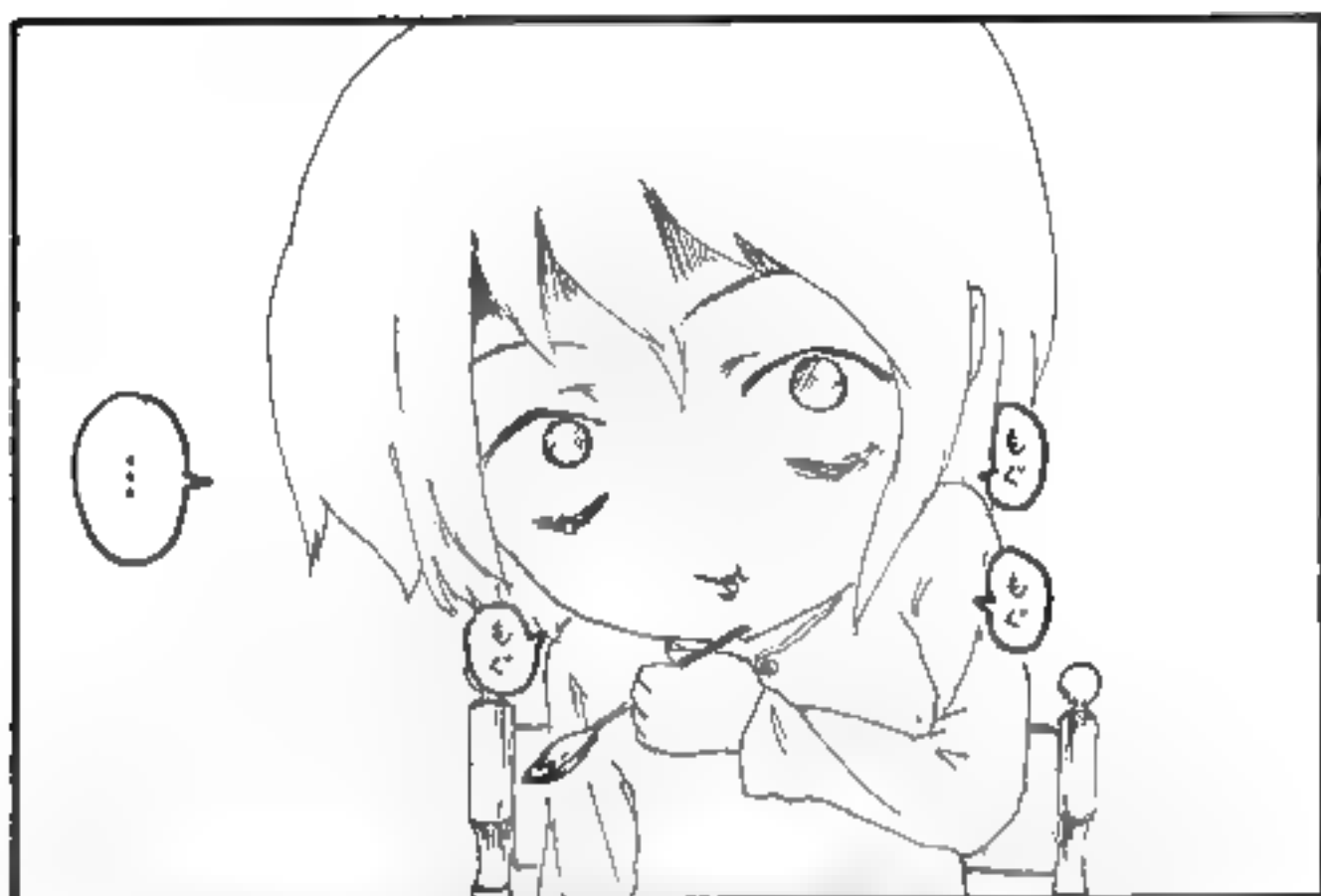
他の皆も
黒松君も

何の問題もなく、楽しそうに
日々を過ごしていた。

ねえ、あんた

最近大丈夫？





トットト...
ギョギョ...

ウーン。

ほっときすぎた
かなあ。



しーん



あ、
お母さん、あのね...

ずっと前からね、
やさしいお姉ちゃん
来てないみたいなの...

あら、

あまね
ちゃんの
こと？



そんなに
来てくれてたっけ？



ウーン...

お兄ちゃんだけ
お留守番の時はね、

いつもお姉ちゃんが来て、
うちで遊んでたの。

その日はね、
お兄ちゃん
機嫌いいからね、

警視、
見てなくても
わかるの。

でもね、
ずっと前からね...

お兄ちゃん、お留守番のあとも
怖いからね、

もう、お姉ちゃん
ずっと来てないんだなって、
思ったの...



はく

へえ...

鶴川君、ちょっと

あんた最近
大丈夫なわけ？

ずっとひとり
いるじゃないの。

いえ……
平気です、先生
何もないです……

今・ま・で・ず・つ・と、
お・友・だ・ち・と
仲・良・く・遊・ん・で・た
じ・ゃ・な・い・の……

……私のクラスでさあ、
最近はやりの自殺？とか
出ちゃったら
困るのよねえ……

あんま心配
かけさせないで
くれるかしらねえ。

……いえ。



ホラ、静かに！

マジメに書く人の
迷惑にはならない
ように！

こういう授業だと
先生ラクでいいわ！

ざわ

ハイ、始め！

ざわ

ざわ

紙が
足りない人は

取りに来て
くださいな！

■に出てきた
文章だった

字は丁寧に、先生が
読める字を書きましょう……



僕がたどり着いた結論は、「忘れる」と「考えない」ことだった。

自分でも、みるみる元気が
なくなっていくのがわかった。



あま姉のことを、
忘れて、考えない。



クラスでの
コミュニケーションを
忘れて、考えない。

自分の欲望を
忘れて、考えない。
これからのことも...



忘れて、考えない。



それでも...

満たされない感情は容赦なく溢れ、



どうにもならない日常は容赦なく訪れ、



希望の光なくとも明日の陽は昇り、



思考の道筋は闇夜に閉ざされたまま、

明かず、進まず...



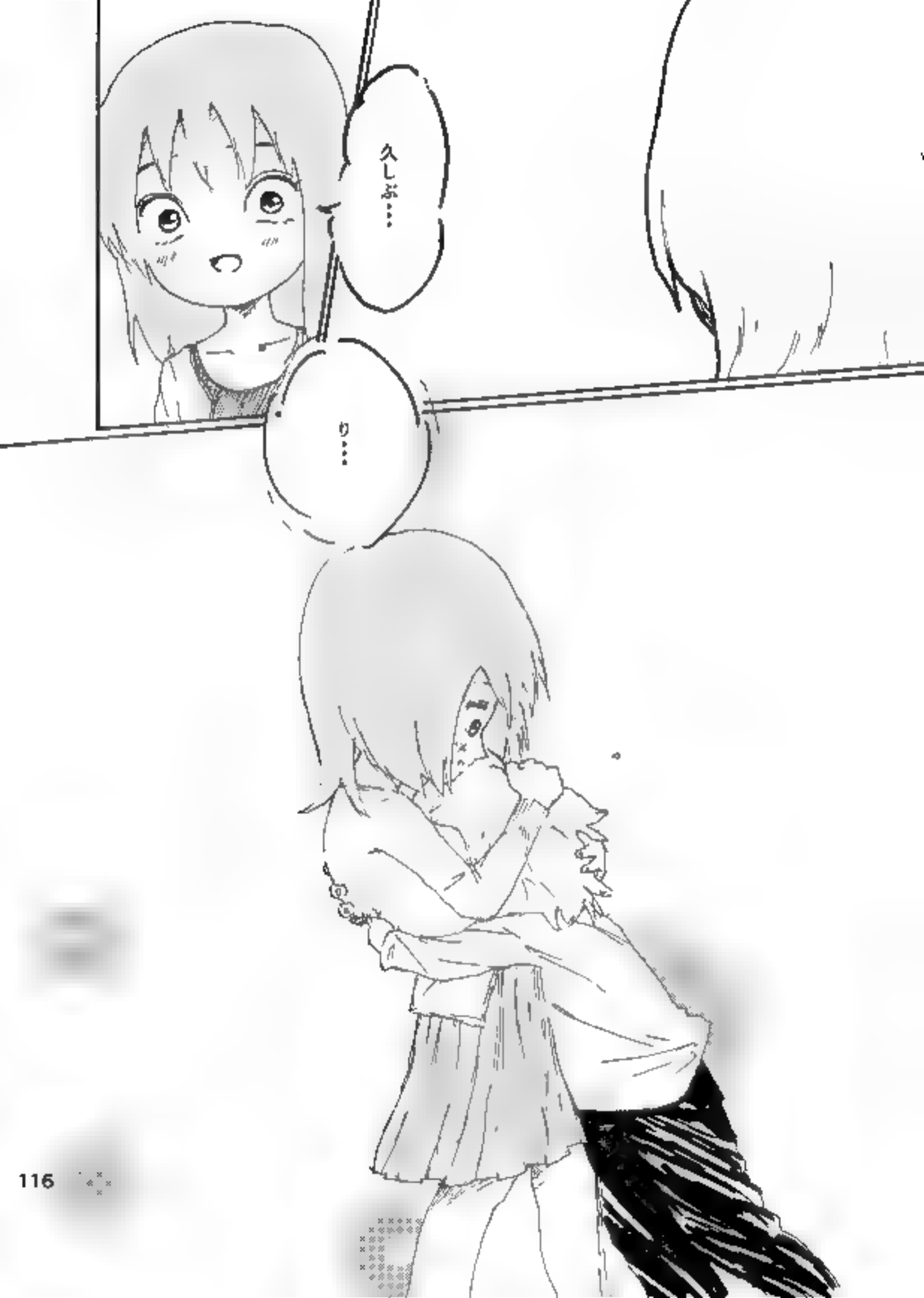
救われず











久しぶり...

り...



……

クラスの男子で、
美人の姉がいて、

あんたとちよつとでも
仲良さそうだったのは、
黒松君だけだったのよ。

あいつからまず、

あんたと何があったのか
少し聞き出してさ……



あんたの親にもわざわざ連絡とって、
長々とおしゃべりしてやったらさ……

そこにいる子とあんたに
交友あるって話が出てきて……

ピン、ときてさ



ホラ、この地区は大体みんな同じ
地元の中学進むでしょ。

そこで黒松の姉使ってたさあ、
その子の今の居場所やら
色々調べさせてさあ……

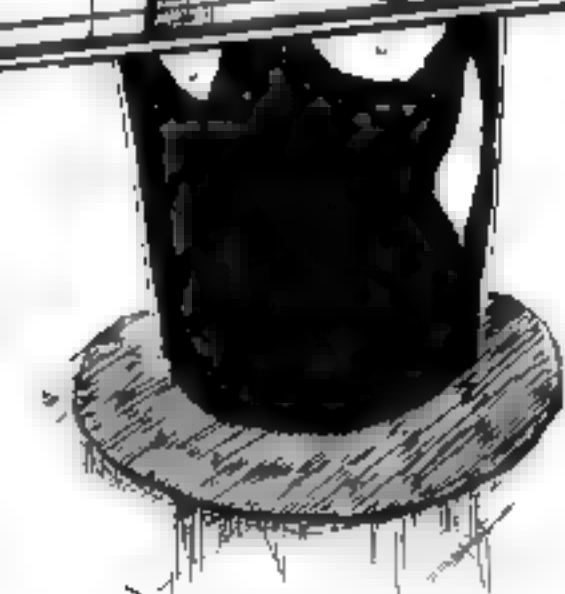
もしやと思って
連れてきてみたってワケ。

ま……その様子じゃ
当たりみたいね。

私の勘って
よく当たるのよねー。

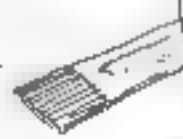


しばらく二人で
話してな。
まったく……



～学園長「おれ」の
No.1 Coffee (お客様用)～

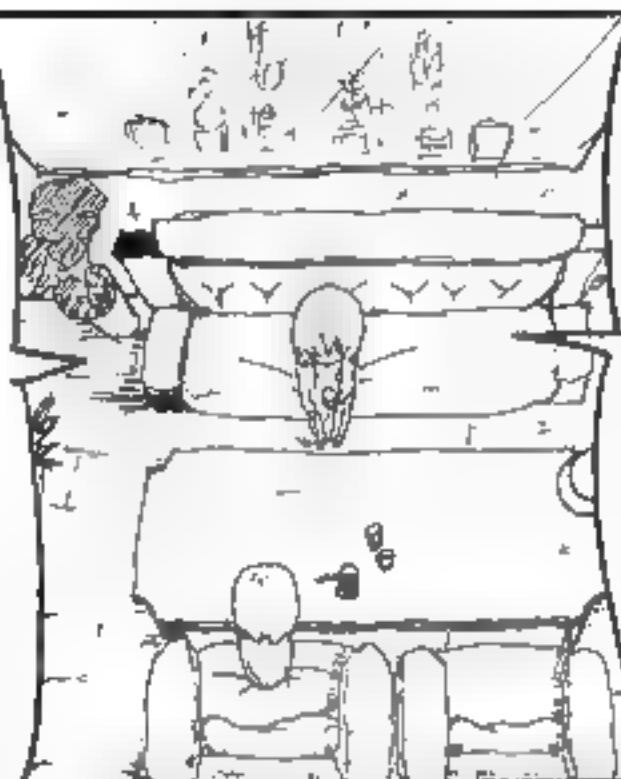
産地マングリノ
炭火焙煎(二日後)、中挽キ
・煎ノンティロ スト
難いコトの先！知る
産地本来の風味。
味は 深 本格派の味。



もともと仲は悪かったんだけど……

とうとう親とは大喧嘩になっちゃってさ。

……家にもいられなくなって。



学校もだいたい休んで……

ちよつと田舎の方にある、親戚の家に
いさせてもらってたの。

……でもさ

親子って、意外と単純でさあ……。

三ヶ月も経てば、お互いのほとぼりも
冷めてて



ちよつと先だけど、
家に戻ることに
なったんだ

ひく……

うん……



ひく
ひく
ひく

……いろんなことが
あったんだよ。

私も、絶望してた。

一生、背負っていかなく
いけないことも

できちゃったりして。

親戚がね、
面白い人でね

そしたらね、

私は
狭い世界、小さな視野の中に
閉じ込められて、
苦しんでるって言うの。

でね、
いろんな所に
連れて行っ
てくれた。

こんなにステキな
場所があるんだって。

こんなにキレイな景色が
あるんだって。



しっかりした人も、
しっかりしてない人も、



男みたいな女の人も、
女みたいな男の人も、



運動だけ、
勉強だけできる人、

学校にも行ってないけど、
ゆかいなことをしてる人、

うるさい人も、
静かな人も、

うるさい人も、
静かな人も、

日なたで、
日かげで、

みんな、
楽しそうに
生きていられたって、

そういう所が
一生かけても回れないくらい
あって、

そういう人が、
一生かけても出会いきれない
くらいいるんだ、って。

言葉にすると、当たり前だけどね。

私は、まだ子どもだから
一人じゃ生きていけないけど……

周りに溶け込めなくても、
家に居場所がなくても、
ちゃんと楽しく
生きていけるんだって
知ったからね……

ザザ

自分の心の中に、

いつも、
暖かい光の差し込む場所が
できたような気がしたの。

フ

ん

苦しんでたら、
もったいないじゃんって。

...

苦しくて、
何もできなくなるのって
当たり前じゃない。

でもそれって当たり前すぎて
ツマンナイじゃん、って。 あはは...

ゆう君、私ね...

ゆう君に見せたいものが、いっぱいあるんだ。
会わせたい人もたくさんいるの。

たくさんステキなもの見て、
楽しい人たちと会って、

心の中に、いつもキレイにきらめく場所が
いくつも、いくつもできたらさ...



……休みの日とか、
時間あるときはさ、

一緒に
いろいろなとこ

Hなことも、

こっへん

たまになら、
したげるよ、

正直なところ、

僕の頭に入ったのは、
「家に戻れる」と、
「Hなこと」しか
なかったけれども

コーヒー
おいしかった
です

あらそお？
校典の
シュミよ……

黒松姉にも
おれいっときな
結構
心配してたわよ

あま姉は、前と違って

キミら
それぞれ。

飲むの
おれてた……

とても生き生きとしていた。

放課後や休日よ、
足を運べる範囲で
色々な所に行った。

あま姉は、ある日突然
やりたいことができた、
と言って

よく文章を書いたり、
色々な本を読んだりしていた。

僕は、この思い出を
たくさんとっておけたら
いいなと思い、

お父さんに
カメラを教わってみた。

パン

写真コンテスト

なんかいね

スゲーじゃん

へーっ、これ
鶴川が撮ったのかー！

最優秀賞



鶴川が撮った、ぼんぼり、池、雨、夜

いったの？

いつだったかなあ……
たくさん撮りすぎてて
わかんないんだけど

少しずつ



パラ

あー！これ！
これ！俺も
行きたかった
やつだった

とにかく適当にたくさん撮って、
運良くいいのがあったら
少し加工する感じで……
色々良いのはファイルしてて



少しずつ

俺のこと
撮ってよ

この女の人
だれー？

少しずつ……

フア……

あ、これ
カワイーっ

パラ

パラ



パラ

心に、明かりが
灯っていくような



そんな気がした。

「僕はお姉さんがほしい」

作:きくお

—

発行

Kikuo Sound Works

<http://kikk.uunyan.com/>

2013/12/31

印刷

しまや出版

・あとがき・

この作品は、ふだん、どちらかというと作曲をやっている私きくおが、2013/9～11の3ヶ月間で仕上げた、初めての漫画作品です。

昔から元々、漫画の物語やネーム的なものを作るのが好きだったのですが、遂に本気で描きあげたいと思う、つまり今回のネームが完成し、勢いで描き上げたために、ある日突然の漫画発表という感じになっていたかと思われます。

個人的にはこれでも気がおかしくなるような作業量でしたが、まだまだ描きたい物語があるので、慣れたりうまくなったりしたいと思っています。

最後までお読みいただき、ありがとうございました！

p.s.

書籍版、刷りすぎて余ってるので記念にBOOTHからどうぞ（白目）